

扶桑皇統記圖會

後編

二

2472
9



門へ巻13
2472
9

扶桑皇統記圖會後編卷之二目錄

山城國鞍馬寺関基

峯延法師退治大蛇條

奥州夷賊蜂起官軍敗績

重而東征使下向條

鞍馬の峰延法力を以て大蛇を退治する圖

感靈甚大養得奇子

坂上田村九遇延鎮傳

官軍与夷賊于奥羽合戦

田村九武勇討大熊九條

田村九明智賊の幻術と挫き賊將大熊九と討圖

三卷九回

毘沙門地藏の二首尊雲中小頭と田村九軍を援ふ因 其二

延鎮語兩股士奇侍 田村九建立清水寺條

乾臨閣御遊緒繼昇進 老人星出現大救支

平城天皇御即位并讓位 嵯峨天皇受禪南都擾乱

天皇加茂齋院御幸 有智子齋院詩作條

浅山金吾遭盜難入水 渙父兵太湖上助浅山事

浅山金吾湖水不陷于渙父の為小一命を助る圖 終

扶桑皇統記圖會後編卷之二

浪華 好華堂野亭参考

山城國鞍馬寺開基

峰延法師退治大蛇條

奥小中大藤原伊勢人といふ人あり。佛道小飯依と深く觀音菩薩と

信仰し何卒一個の靈地を得て佛堂を建立し觀音の尊像を女單尊と

やと多年心小思暮々小延曆九年冬十月頃一夜の夢小遇然と洛北乃

山中一行しとら白髪友の老翁一人出来り伊勢人小告て曰此山と天下無双乃

靈地小く山の形三鉗小似く常小五色の雲變隼り你此地小佛場と聞

を其利益廣大して福を得支無量と云々小伊勢人大小怡々

再拜して尊公羽八何人かて在と云々同々小翁答て云ハ是王城の鎮守貴

船明神なりと告りて夢小覺る伊勢人靈夢の御告と感悦する



とりども其夢小入一山と河所なる更と記憶とは是小依て思煩ひもどつて
 思惟しと馬ハ靈驗ふと路を知とる我騎とるの白馬ハ我心小
 合一名馬かり渠と追放して夢小入一靈地を尋りて若くハ彼地を知更
 右人々て件の白馬を曳出し鞍を置專を咄せ諸馬小向ハ古の管仲馬
 雪中小路を知て諸軍と導す帰しとる你も我夢小見一山中と尋ひて
 知りぬと言せ一人の童子と馬小隨ハりて追放しとる白馬ハ京城の北へ
 走り遙くと川を渡り谷を過て一座の山小到り葦取の中小留りて數声嘶れ
 くる由一童子其地小標を立置馬を曳て去り伊勢人斯と告れど大い小
 怡び童子と引路とて其地ハ西辺を巡見小恰も夢小見るととる此
 違ハど伊勢人白馬の靈織を感し山中と徘徊とる草茅の中小於て鬼沙
 門天の像を拾得とる伊勢人奇特の更小思ひ立帰て工匠小命ト彼地小一

宇の寺ヲ建立し拾得とる毗沙門天の像と安置し鞍置とる馬の知せ地あれ
 ばとて鞍馬寺と号しとる獅子頭山も 又松尾山も然小伊勢人思ひくるハ我多年觀音の像
 於安置せん志願かりとる小毗沙門天の像と得ハりて一寺と建立とるとり
 どもいづれ旧の宿願を果せざると心満足せざるととる小其夜の夢小天童二人出
 現し你毘沙門天を得ていづれ念願を果さずと思ふも觀音と毘沙門天
 異なるれも其本同射ふと你が念願己小満足せると告るとひく夢覺と
 伊勢人は小りて疑心忽ち解悦し限り色も後日小別小寺と建立し
 觀音大士の像を安置しとる今鞍馬寺の西多る觀音院是りり斯て後諸
 人鞍馬寺の多門天を信し祈る小靈驗灼然ある更卿貴の物小應とるが如く祈
 願とて成就せざるとい更なく殊更富貴を子の事端的に貴賤の參詣日
 小絶る更なく後年峯延法師とて勇猛精進の僧鞍馬寺小住侶とる小

其比後の山の溪間小大蛇栖ぐ時、寺僧土民を吞食、其害小遭者少く、これ
を僧俗とも大いそを愁ひ、峰延此妖孽を退んと六月廿日後堂小於
て大護摩と修せられ、日中の比暴風俄小吹起り北嶺より件の大蛇岩を
動し樹を仆しと出来り、其鉢眼鏡の如く紅の舌、火焰小一般なり。侍者乃
僧大い發た、恐ま師を捨て逃走り、伏峰延此も動せど頻小毘沙門天
の真言と誦せられ、不思議や一天小黒雲群り起り怒風砂石を吹捲と
ひくく彼大蛇忽ち段々小斬きて死し、其後緒人弛集りくく小血
流まき、河水のくく切き、肉小岳の如く、是偏小峰延和尚の行力ふく毗沙門天
の威神力を顯し、もくもくたり。緒人感し、始むる。諸土人四百人寄大蛇の
死肉を静原山運ひ棄る。それより其地を大馬嶋峰とぞ稱し、今小い
す。六月廿日小竹切といふ行吏と修する、彼大蛇を斬り遺意也と云

奥州夷賊蜂起官軍敗績 重而東征使下向條

桓武天皇平安城の新宮小遷幸、わのい後菅原真道藤原葛野石原小
命て新都の内小於て公卿百官の宅地を割定て頒与せり、百官百
司大い悦び各居宅を構り移住し、た。奈良長岡亦の士農工商も同く
我先や新都引移り、も、都の繁昌た、く、最賑く穩なり、小忽
ち東國より急馬追ふ、蒐者奥州小大熊石名と中夷賊蜂起して郡縣を劫
り、掠め其逆威猛烈なる、國司も制さる、吏能も一國の強動以の外、
小間急た征討の大將を下し給る、あ、とぞ辨へる。帝大い發た、各小群臣と
召れ、御拜議の上、參議紀古佐美と征東大將軍小任、節刀と賜り、高
田道成を副將軍と。池田真牧を中軍の別將と、安倍重繩を先陣と、定
め、官軍二万騎を授け、ひ、是、小依て諸將勅命と奉り、花や小軍装を



大蛇の窟 阿彌陀佛 巻二

四



鞍馬の
峰の
延法力
大蛇と
退治
法

延法

大蛇の窟 阿彌陀佛 巻二

三

整へ節刀使の大旗を真先小押を東小向と首途の鎬三度放し意氣
 揚ぐとて都と進發しるも勇ましく入えふる。斯く官軍與例小下
 着し國人小案内を衣川の此方小陣營と構賊軍と二戦小蹴散さんと軍
 之を定め四五日兵馬の疲労と休め己小三軍劣然忘れんを明日二戦
 を催さんと宵より準備をり曉方小兵糧をうり朝霧のよき雲をうり
 より先陣二陣段々小押出衣川の岸までうり川向をんせむ賊軍己小
 出張せしと覚く。川霧深く立電する中より楯を敲れ笠を鳴しと喊を
 嘯とせ發する官軍是を夕借ハ賊徒北岸へ出張せしと二戦小蹴散せしと
 いまど大将の下知もあられ小逸雄の若者どもは楯を合し川岸小立並んが
 鉄を揃り雨のどく矢を射れを賊方よりも矢を射返し互小矢軍小時を
 うはと内霧をい小霞うりるも先陣墨繩の麾下會津社工名大伴

五百冠亦何時まで矢種を費をるれ只も渡り蹴散せよと年并た三百騎
 五百騎追々小川を渡り太刀拔連喊を發して去りて楯の蔭小ひて
 賊軍圍をも合して静り及て在るを官軍も敵小謀計ありと疑ひ小時
 猶豫々々未賊將大熊丸の幕下小智才の者有て京軍と欺んくと云々
 菓木偶を造り紙を甲冑と作り番旗旗も紙を以て大勢屯せし体小
 とてを其後小二百人をうの士率とせし候小喊を發り矢を射させしを京
 軍の川をうり時分賊兵皆退れ山蔭杜中あど小埋伏せしなり官軍を
 敵ふる偽の計ありとあどや敵小少くの謀計ありと何程の更う有
 るれや伐や呼り勢ひ猛り鋒を揃りて去りて去りて去りて去りて去りて
 小太刀の當らぬをいふもむと休まざる小を京軍是をよりくれば皆菓
 土偶なり是よりて衆率大不腹を立悪た賊徒の謀計あとして蹴散く

け抜て向をえん。山根小旗旗を翻して賊軍屯せし体かねむ。あれ伐散せよ
 と近り行先陣の大將墨繩も賊の欺れを憤り味方不續て弛ゆるる小是
 もまご空陣たり多れ。衆兵憫みて長途を励く近り人馬も疲れくる由
 勢をまき少時息を休るところ小思ひもあね山落より一千騎余の賊兵殺
 出り夜川の北岸小群と京軍の帰る路を切塞ぐる。京軍疑は須波敵ハ
 彼所出く帰る路を塞しと憎さも憎し一人余を慶全せよと叫り近向ハ
 人とする内小此所彼所の杜林竹藪多し。二百騎三百騎の賊兵追く不起
 リと勞果て隊もまざる官軍小矢を射り喊を發て伐ゆるる官軍又是ハ
 強たむ物くやと敵もさる合鎬を削つて戦ふと久も不意をかれし心周
 障隊乱してええる所。又賊將大熊九千騎を將く山落より殺出り官
 軍中少くは雷雨の如く矢を射り喚び叫んで攻ゆるる。官軍殊戦難

義とかり隊散乱して手負戦死数をあつて會津壯九六伴五自達を先とて究
 竟の勇士十余人戦死。墨繩も矢を二筋射付れ。這くの体も敗走する。賊軍
 と勝不乘て八方より探まぐる。小官軍ハ惣敗軍とあり耻を知る武士も乱
 軍の中戦死。或ハ敵と刺違て死。言甲斐多たハ敵不追捲られ川水不溺
 是例不沈んが死亡するも多し。二陣の池田真收も先陣を救んと川岸追
 けけはと。北岸の賊兵の為不散く射痊られ且敵の伏兵起りて不意ハ
 伐まぐる。此隊も散く不敗軍。三陣の高田道成是を救んと近付り。賊軍
 の伏兵不困まん。主將道成戦死。士平も多し討て敗走し。惣大將紀古佐美
 味方の敗軍とまき是を救ふも早追く味方の敗軍。逃来り味方物敗軍
 とかり一更多れ。今六脚飯陣ありと言ふる。小官軍と収て國府まで退き勢
 成點檢する。死亡の者二千五百余人。手負千二百余人。及び敵の首と討取更

百五十級も足ざりぬ。三軍大い氣を屈し、再び戦ふ義勢もわく二十日許引
籠りて、後小軍の評議あり、且送りぬを、賊徒の京軍と纏り、怪人恣に横行
し、郡御と劫し、掠りたるも、日官軍の陣、ゆる者絶間り、是に依て古佐美
緒將と高議し、出陣して戦ひを挑むとす。毎度賊の謀計、陥りて敗軍し
只兵を折ぐの事、なれ終、奥州の在陣、叶ふを、すゞくと京都へ逃上りたる。帝大
逆鱗在り、大將軍古佐美を召出され、軍慮拙く見苦れ、敗軍して、多く兵を
折たる罪と責め、ひくも古佐美、恐入先陣、墨繩敵を、怪人、慮りたる敵の
謀計、小中と兵士を、多く折れ、史味方、銳氣を屈し、其より兵勢弱り、敗績す
趣れを、奏し、るも、帝漸く古佐美、罪と省し、閑居せし、まひ、真牧墨繩の
兩人、官と剥ぐ、追放させ、ひくも、其後、又文武の諸臣を、召集のひくも、東夷と征
伐せしむ、ぬれ、大將を、誰彼と、却評議あり、衆議、不依て、大伴弟、名と、征東大

將軍小任、百済王、俊哲、藤原真、警坂上田村、名三人を、副將軍と定め、ひ
官軍二万二千騎を、授け、急に、奥州へ、弛下り、兎徒を、不日、誅伐すべし、と、官命
を下され、猶、東海、東山、兩道の、國司、守、護人、軍兵を、出、東使、小加勢、す
ぬれ、旨と、命、の、ひくも、大伴弟、名、俊哲、真、警、坂上田村、名、の、四將、勅命、と、奉りて
軍装、美く、整、都と、進、發、し、て、奥州へ、掃、小、と、い、で、下、り、たる
抑、今、度、東、夷、征、伐、の、副、將、軍、小、任、せ、ぬ、中、の、入、坂、上、田、村、名、と、い、る、は、從、三、位、右
衛門、督、坂、上、田、村、名、の、嫡、男、正、四位、上、大、養、の、子、なり、大、養、年、四、旬、と、超、る、ま、で、一
子、ある、を、歎、た、夫、婦、初、瀬、の、觀、音、小、祈、誓、と、う、け、七、日、參、籠、し、て、方、望、二、子、を、授
け、し、と、信、心、を、凝、し、て、祈、り、する、小、便、生、端、正、福、徳、智、恵、之、男、の、誓、願、空、す、と、い、ふ、に
七日、満、ち、る、夜、の、暁、の、夢、小、金、甲、と、書、し、戦、を、推、か、し、神、人、出、現、し、大、養、の、妻、乃

口中飛入のふと見て夢覺たり。夫妻ひくく夢と語合ふとの小僧の夢を
 一奇異の思ひをか。是正しく観音菩薩我後の祈願を納受在
 一子と授けり。ふと最頼母の思ひ夫婦佛前小額著て佛思を拜謝
 一と下向する小果と程なく妻女妊娠。十月満て平小玉の如き男子
 出生。大艱夫婦大い小胎の掌中の玉と鍾愛荒れ風中やと慈
 育する小嬰兒の頃より普通の小兒より大體小く常の兒の如く啼哭
 敢て物發せむ無病小生。六七才の頃より手跡を習ひ儒書を
 讀み記憶よく。一度やめて忘るる更なく機叢重小勝り且又力甚く強
 く。七八才の頃より血氣の若者。博しぬる大石を小腕小く持運小東
 重げなる色も見えぬ緒人驚嘆。奇重なりと稱する。父大艱も奇
 かりと感むる。更度く有るも。突も観音の授けり。子なれを尋常の小

兒と異なり。奇と思ひ。一電愛。大切小く育つ。然小一時大養の許
 貞福寺の僧来りて。田村九の人相骨法を見甚く奇くして。大養小語て曰
 賢息の人相を看み。大不好相あり。後年必く天下小名を車くると名持と成
 る。ふと賞美。大養深く悦び謝して曰。渠ハ初瀬の観音小祈願
 をとめ授けり。其時の夢小金の甲冑と著戦を持する神人愚妻の
 口中飛入のふと見て程なく妊胎。出生。せり。わりと結りたる小僧。感嘆
 されむ。普通の小兒と異ふ。是も理りなり。其神人を多門天と即ち觀
 音三十三身の中有神將なり。とて。田村九と禮拜と帰れ。是より推し
 かり。田村九を毘沙門天の再誕なりと言觸り。斯く田村九成長くと年十八
 小及び身丈六尺三寸胸板の厚二尺二寸鼻隆準と眼光星の如く。声鐘の如く
 十里小御音。聲力底を去る。馬物物の技。更なり。兵書小通。陣

法不精く。殊不測ある。身と重くせん。欲する時、二百斤三十三。狂くせん。欲する時、六十斤九。足む。狂重意の欲する。僕小なり。眼と瞋。一氣を厲して向ふ時、八猛獸も怖伏。色と和げ。咲落る時、小兒も弭親。心誠。古今稀なる英雄。あれ。朝廷の御覺も他。小異。常。小内裡。召れ。衛護させ。ひけり。田村丸。智勇。衆小。秀。さる。の。あ。む。を。佛。法。を。も。信。仰。し。殊。更。觀。音。を。深。く。尊。信。せ。し。れ。る。小。年。都。の。東。山。小。遊。獵。し。身。躰。稍。疲。ま。ま。山。中。小。軒。乃。丹。菴。あり。る。史。を。入。て。憩。れ。し。と。ろ。菴。主。と。覺。し。一。人。の。老。僧。經。文。を。讀。誦。し。て。居。る。が。田。村。丸。の。入。入。腰。さ。り。け。ら。し。と。思。て。經。卷。を。さ。り。置。湯。を。汲。葉。と。出。し。懇。小。管。侍。々。田。村。丸。其。志。と。感。し。謝。し。と。も。脚。僧。は。う。る。人。跡。絶。る。山。中。小。只。一。人。行。ひ。ま。ま。し。の。小。更。い。も。殊。勝。の。更。ま。何。國。の。人。か。く。在。ま。と。同。ま。を。老。僧。を。見。て。批。僧。ハ。河。内。國。の。産。ふ。て。法。名。を。延。鎮。と。号。し。い。か。先。年。不。思。議。の。聖。夢。を。感。し。

淀川を流りて行いひ一流の技河あり。是を望見い小水と小金色の光。杖采。然た。まを異く。かの光を同當として流小添。遠く山路を公登り。終小當山の滝。泉の下。来りい。小側。小草。と。結。る。菴。有。て。一。人。の。老。翁。身。小。白。衣。を。著。し。端。座。せ。り。其。体。頗。る。凡。庸。か。ず。ん。え。い。ひ。も。一。批。僧。其。姓。名。を。尋。問。い。ひ。小。翁。答。て。我。を。行。睿。居士。と。い。者。なり。往年。より。此。山。間。小。隱。栖。し。と。年。久。く。常。小。千。千。千。眼。の。神。咒。を。稱。る。の。ま。ま。の。世。上。の。変。易。と。あ。ら。む。我。一。個。の。願。望。有。て。你。を。待。更。ま。年。久。今。奇。縁。熟。し。と。相。會。更。は。得。恰。悦。小。堪。む。我。者。願。と。習。む。別。の。義。あり。と。當。山。と。觀。音。の。道。場。と。な。る。る。無。比。の。靈。地。なり。又。彼。處。小。牛。一。老。樹。ハ。無。双。乃。靈。木。なり。彼。木。を。以。て。觀。音。の。像。を。彫。ま。い。と。思。り。然。る。小。我。さ。る。子。細。有。て。東。國。下。ら。て。不。叶。要。救。あり。依。て。你。我。小。代。々。此。菴。室。小。住。觀。音。の。道。場。と。聞。く。る。れ。准。備。せ。よ。我。も。程。か。く。歸。る。魚。し。と。も。若。我。歸。る。更。遅。く。も。你。先。更。と。成。

始よと言終り公羽別を告て東方行去いひた其より拙僧此菴小住一春秋
送る更二年及も彼行睿居士敢て帰きまじふ更余待まじ所を尋
廻りいひ山科の東牛尾山小嶽の末老公羽の履一皆有と認い茲小於拙
僧はく考へ彼行睿居士と名告一翁ハ觀音菩薩の化身小我小此
土地小道場然用色むいふ方便なり多と始て悟り此菴室之歸り教小
任せ佛像と刻し寺院を建せんと欲とも見入如く羊歴する老樹拙
僧が自力小及及もわむと地形もま樹木陰森と山石屹々奈何
ともの更能く只期のいふ待入外小絶と有れ方便もた一向小
觀音經と千手陀羅尼を誦と目と送りいひ小前後大風吹強雨降
山鳴溪應震動と更終夜不止曉方漸風止雨収り物音靜りい
也今朝起出ていひ樹木悉く拔作し山石裂破確と土地平面小なり

堂塔を建る便り成得て是佛堂を造立とた時節来り觀音の妙智
力成り樹を抜岩を頼りいひあめと思ひ山中と見巡りい小嶽乃薩
小巨なる鹿二頭斃死といひた是前夜觀世音の命と承て樹を抜岩を
頼りて勞れ斃れいひあめと思ひ彼所埋と印小石と建間塚是置いと
いと長くと物語をいひ田村丸始終を定と深く感れ我も多年觀音を
信仰し土地を擇と一字の觀音堂を建せんとお小更久れともい其
宿願を遂とぬ小今日不斗狩小出と此山中小入脚僧小面會と右の物語
を更更偏小觀世音の導た遇りいひと成り我脚僧小力と添俱小
觀音堂を建立とを也我改宅せむ工匠人夫を招れ集め明日當山と越
人間脚僧指揮と其靈木を伐せ先觀音の靈像を彫りてとすれ小
延鎮大小歡喜如斯あれを拙僧が年来の願望成就せん更何の疑

あんとて拜謝し、これを田村九堅く契約と私宅へ歸り、其翌日、吾々の工
匠人夫并小糧金銀ホと音羽山の延鎮小送り多ふす。延鎮恰び小堪
こ。彼老樹を伐せ、其材を以て御長八千千眼の觀音の靈像を彫
刻ふごうとせらる。然小田村九今度東夷征伐の副將軍の任と蒙りて大悦
是先祖の名と引與し子孫敏昌の基と開く端なり。此の佛菩薩の加護と
祈むんむ全れ勲功ハミと思ひ音羽山から延鎮の菴へ結々多ふ早
千千觀音の像大半成就し、これを田村九大不始び延鎮小向ひ我今般勅余小
依て東夷征伐の副將軍の任を賜り、師我を為小觀世音小祈誓言とて
味方の利運を祈り、我も自願んとして過半彫る佛像小向ひ礼拜し、願ハ
大慈大悲觀世音菩薩大威神力を以て東夷と安く夷しめ、凱陣の後ハ
堂塔を建ち、永く此地小鎮座せしむんと。丹絨を凝と祈念し、延鎮小

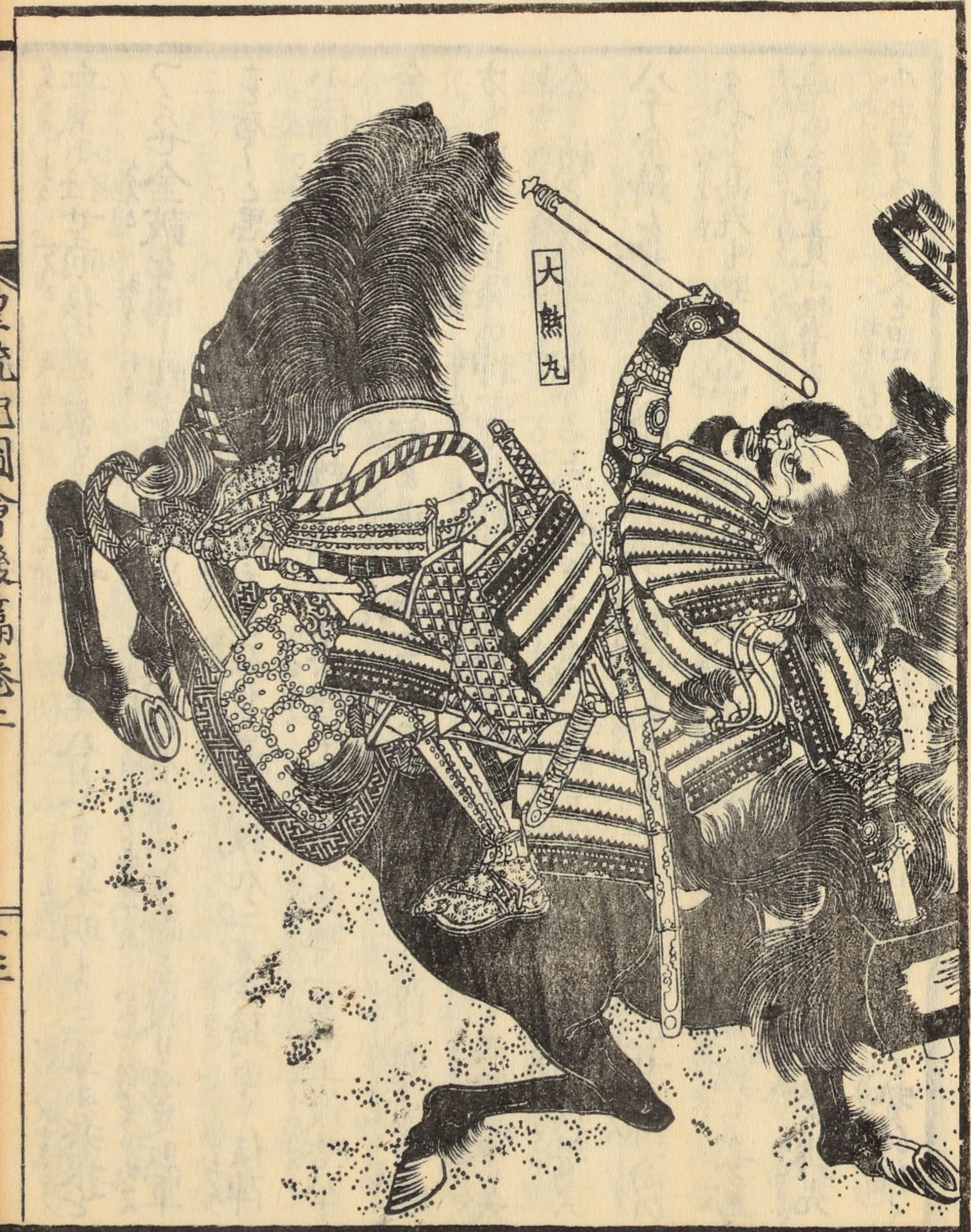
別を告て歸り、出陣の用意を整へ、諸大将ととも小東國へ下られ、

官軍と夷賊于奥州合戦 田村九武勇言大熊九條

去程、征東大使大伴弟名、副將軍百済王俊哲、藤原真就、坂上田村
大呂、小奥州を望み、下向せしむ。東海東山兩道の軍勢追々小地加り、
陸奥國府へ著到せしむ。頃ハ三万余騎小及り、諸大将大い、要害の
地小數個所の陣營と構へ、逆茂木と植兵糧を運せ。今度とて夷賊の根
を斬棄と拵んとし、小軍議とて、攻伐の準備と急せしむ。時小夷賊の首
領大熊九、去年の軍小步勝て、官軍恐る小不足と慢り、睡ん。己が時の
虎威と特て、州郡と犯掠り、橋本と志中、淫酒小長ど、傍若無人小奉止
々る小。又蝦夷の嶋夷の巨魁小高名、惡路王との曲者二人あつて、幕下小屬
たる夷賊一万余人を従へ、是も奥州へ亂入と郡縣を劫り、掠り、大熊九と一平

小あつ。いよ。逆威を逞まう。其勢九万騎。小余り。然も悪路。王六務を降し
 雲を起し。怪れ邪術をま行ひ。れ。た。た。京勢百万騎あつ。も。只一戦蹴
 散さん。更つ。易と侮り。燒。己が柵を出。官軍の陣。京向ひ。廣野。小敷
 箇所の屯。と。構。官軍の大將。大伴。弟。官。是。を。足。了。悪。た。夷。賊。の。奉。止。あ
 味方の猛勢。を。足。を。伏。且。脱。降。参。と。る。う。あ。遠。く。逃。退。く。を。た。高
 も。来。つ。虎。の。鬚。を。引。と。と。る。ど。奇。怪。れ。早。く。馳。向。ひ。一。戦。小。伐。散。せ。と。り。た
 ち。と。と。と。田。村。丸。練。て。白。軍。法。中。の。小。敵。と。て。慢。り。う。と。と。と。増。て。賊。兵。の。勢
 小。あ。つ。と。然。り。地。の。理。小。委。れ。を。怪。れ。ん。が。じ。味。方。の。敵。軍。より。多。勢。あ。れ。も。や
 さ。む。諸。國。の。寄。合。勢。と。い。ひ。地。の。理。を。委。れ。知。れ。を。怪。く。軍。と。仕。け。お。を。思。う
 く。八。却。く。敗。軍。一。銚。先。小。疵。を。付。る。小。到。り。い。れ。し。只。陣。營。を。固。く。守。り。能。く。敵。の
 虚。實。を。探。り。謀。と。定。て。後。彼。を。伐。ん。と。上。策。お。て。い。り。と。制。せ。れ。た。れ。第。一。

呂嘲。い。貴。殿。の。名。小。中。え。る。武。勇。の。人。と。思。ひ。小。案。の。外。臆。病。柔。弱。あ。る
 更。と。下。さ。る。う。軍。法。小。先。ん。と。る。時。人。を。制。し。先。ん。せ。る。時。人。小。制。せ。し
 る。と。謂。む。や。去。年。墨。繩。古。佐。美。が。輩。貴。殿。の。如。く。敵。を。恐。ま。長。評。議。小
 日。然。送。り。て。一。度。も。勝。利。な。く。大。小。兵。を。折。た。見。苦。く。都。へ。逃。上。り。て。官。軍。の。威。と
 損。し。其。身。八。君。の。脚。不。貞。を。家。ま。り。是。臆。病。未。煉。より。更。甚。ま。る。な。り。予
 苟。も。帝。の。脚。擇。小。あ。つ。征。東。大。使。小。任。せ。れ。下。向。せ。上。八。行。時。も。猶。豫。す。べ
 れ。小。あ。つ。王。威。を。首。小。頂。た。賊。徒。を。一。戦。小。伐。夷。げ。君。の。宸。襟。を。安。ん。と。ま
 つ。人。更。方。す。の。内。小。あ。り。貴。殿。ハ。後。陣。小。在。て。予。が。武。略。の。才。を。見。物。せ。る。を
 飽。す。で。大。言。小。れ。田。村。丸。其。練。を。知。て。再。び。言。と。と。想。て。退。れ。る。事
 六。百。八。百。濟。王。俊。哲。小。八。千。余。騎。を。授。けて。先。陣。小。進。せ。藤。原。真。就。鳥。小。八。千。余。騎。と
 授。けて。二。陣。と。其。身。八。万。五。千。余。騎。を。領。と。三。陣。と。な。り。田。村。丸。小。鼻。明。せ。ん。と



田村丸の如く
 賊將大熊丸
 討つ

血氣不任せ前後の思慮もたゞ延曆十二年八月七日未明より三軍の兵狼と
 つらせ金鼓を鳴り螺を吹て押出り田村九郎を慢り必定敗軍
 を奪りと思ひ味方の戦ひ難義も及ぶ是れ救んと万余騎より後陣
 小備へ合戦の中へ見物せしる去程小官軍の先陣百濟王俊哲半
 余騎を魚鱗小隊貝鉦を鳴り喊を發て賊將大熊九郎陣へ押寄る賊
 方も兼て官軍の押寄を知れ大熊九郎五千余騎して押出り西勢暫く矢
 合へ頓て援連り相かると掛つて戦ふ此時官軍の三陣藤原真就鳥ハ
 八千余騎を九隊と路を横切り賊將高九郎七千余騎めり屯せ陣向ひ
 くれ高九郎も勢を發出して迎へ戦ふ程小西所の敵味方の喚叫声絶ち馬
 啼の音も真小響音々凄しく烟塵天を曇りける然る小賊軍八官軍の鋒先
 小當りり又と思ふ昔有るる漸く引退く小官軍得りりと勢ひ猛く

伐や進めと呼く勇々追進む賊兵ハ倍色々生て崩れ退く三陣の
 大伴弟名大の勇々須波軍ハ勝るも此隊も進んで味方小力と併し敵を
 塵ふせよと下知れど二万五千騎の新兵の京勢大狼の如く喊を發て馳行
 々々小忽ち森の裡より一發の狼煙を揚ると此所彼所の森林數法トを
 賊方の伏兵起り五九二万四千騎弟名が勢と前後左右より取圍り矢を射
 りけ喊を發て採立々々京軍是れ一驚と喚りかぐ大軍とひ新兵あれ勢と
 分る相當り大水小成て挑む戦ひ多し此時追ハ逃足なると大熊九郎が勢怒ら
 足並を整へ盛返して攻進り曳く声をおさる小京軍案小相違りあぐら
 三將三方小分れ下知をわすれ大軍と横戦すると小俄然とて悪風吹起
 りて土砂を吹まると否や朦朧と霧降出ると四方冥々として咫尺の間も
 見えなくなり大京軍大勢敵味方を弁する事を得ず周障強き

向者素是悪路王が邪術を以て降せ霧多し賊兵も霧のよめ小服乃
 うとむ更おれを狼狽強ぐ京軍と擇む討つ討つ小と官軍半負陣波敷
 をあつと只路を求て逃んすれも霧と土煙小眼眩とて東西南北を念ず
 さかぐさ盲人の杖を失ひ如くわんざり時小坂土田村九八後陣小備て先隊の合
 戦の体を見物と居れゆる敵軍偽り敗て退を味方是を減小敗と逃
 ると心得て追行を見是必と敵の謀計小中る事と思はる小果と敵の伏
 兵起り加えあむ俄小雲霧の起りれを田村九馬の鞍を押し諸と賊狩り
 中小幻術を行く者有と覺る昔蜀の孔明南蛮の孟獲を征伐時敵幻術
 及び雲中より魔軍と降し蜀兵を悩せると孔明其邪術たるを知獸類の
 生血をとて大軍小洒ぎけりも幻術破る軍馬も人々小豪木偶なりと
 名今も其理あり馬の血とる器入る大術を打ち用意せりと下知せり

るれ馬廻の士令小従ひ馬と刺し其血を妻の器小受溜是を携り斯准備綱
 ひくれ田村九熊と五百余騎の小批と引率疾風の如く戰場へ強り用意の
 馬血を空市へ時散させり小案の如く悪路王の幻術破る風止雨霧香て曰
 の白日と成る小と官軍夜の明る心地大に怡び又隊と整して敵小相當り
 多の田村九馬疾跳と會釈もかく村雲と敵中割入長五尺三寸寸
 目六十寸小余る大太刀と電光の激とる如く肉を勝殘る賊兵を馬武者
 歩卒の多かり當を幸と斬て落を此太刀下小臨む者小曾も甲も溜ら
 こと一太刀小二人三入切落され一瞬中小三十五六人命と損し手負の者小數あり
 と夷賊此饒勇小戦慄は是とも鬼小神人同業小ありとと睦言と
 消我先と味方と押入八丈間を靡く敗走を田村九八倍勇力加り敵中
 を縦横する更人か街を往か如く弥勇奮奮の敵を討更艸を並雉が如く強

将の下小弱率無ありに従ふ五百騎の兵士も主将の勇銳小励まされ素り新
兵の更むれを太刀鋒尖く敵を切立外外の勇戦々々小よりさうも勇勢の賊
軍も田村九が一隊の小勢小捲りきれ足並支度路小乱まきさうも是れ
始り敗色とえさうも俊哲真就鳥弟六居が勢も色と整一銳氣と復々
敵を追立てる小ど賊軍いよくあけ及てええ小なる賊将大熊九八鹿角を引
裂怪力強勢の曲者あるも田村九のこ小切靡けられ憤り悪れ京将の腕立
うらいで我討面て味方の弱率們的眠を覚させんと馬上小甲とあり整平一丈余
の大鐵を漕くとち揮田村九を目がて近寄られも田村九完示くと先刺よ
手小互敵なけて腕さうも思ひ小望むところの敵よとほく馬と近よせて已
両馬行合程小大熊九一言の言闕小も及む大鐵を揚て撃手てくる田村九も大
太刀と拵一往一来して戦へ更十合及ひ大熊九が敵石も確とち下す鐵と

田村九早く身とるを是を避るといへ鐵の柄を左手小握ではく鬼寄る
小金岡力小曳まう大熊九覚へ馬とるも小曳寄られるも田村九行手討
小喘と斬何うハア堪ぬれりも兇勇の大熊九も甲か肩夫より切下られ
苦とも言と二段不成て死てんが賊率們頼と切なる巨魁を討其猛勇
小辟易して敵の子と散がて八方へ敗走を高九悪路王も幻術ハ破られは
勇勢の官軍小探手れ戦ひ己小難義及一上大熊九と討まうとさうも力
を落し今更むれと馬引返して逃走さうも増て賊兵も隊と乱と弊走
るも官軍勝小乗と追討思ひ小敵を討取高名と頼るも田村
丸味方以制不知案内の敵地を長追ハ無用なりと退鉦を鳴と勢と班
るも小一第六居以下の三将も手勢を集め惣軍一門小勝喊を發り一勢と隊
を立す凱陣さうも滅小田村九の援兵無んも大敗軍小及庵さうも小思の外あり

勝利を得、全く田村丸の助力もよむとあり。弟六名始の過言と悔く其
 勞を謝し、陣營小飯りて軍勢を点檢する。三將の麾下小戦死の者三千
 余人、牛負千二百余人、敵の首を得、更千三百余級と記す。田村丸、五百余
 人の勢、一人も死亡の者なく、牛負五百五十余人、敵首を得、更七百餘級生捕の
 者二百余人、及より時小弟六名、俊哲、真純、鳥の三將、田村丸の高名を賞して、後
 再び賊徒征討の軍議を、田村丸が白賊軍、八軍の進退法度なく陣立とも
 嚴重め、これに破入、更難く、これに夷賊の中、幻術を以て雲霧を降る者有
 し、其將軍、ホ案外の敗をとる。夷秋の國、ハ古より怪れた術を行ふ者有
 と、史及びい、然とも争う久く、王威、敵を更と得べき。其皇天の佐を得、
 僥倖、小勝利を得、二人の賊首を討取、これを残る夷賊を誅伐せん、更難く、
 小臆病風のよめ、ぬらり、機を弛むと、征伐い、なりと、やされ、これを三將、
 然りと

日意。翌日、舟候と出、敵の動靜を窺ひ、むる。賊將高丸、悪路王、昨日の軍
 小多、士卒と折れ、残黨を、驅集、神樂岡の東、大川、小大船と、浮、
 夷賊を招き、聚て、後再び一戦、及んと、専ら、士卒と、驅募る、
 意、小任せ、出陣を止、田村丸、及、征東使と、なり、真就、俊哲と、
 二万五千余騎を、引率、神樂岡、に出張、去程、小夷賊、ハ、初度の軍、小京
 軍と、多、討取、れ、も、又、田村丸、の、為、小多、牛勢と、折れ、離散、
 者、も、多、
 刺、大熊丸、及、討、も、上下、皆、田村丸、の、武勇、と、恐、
 攻、来、る、も、追、く、
 丸、悪路王、是、を、制、
 敵、と、拉、
 敵、小、神、樂、岡、を、起、
 早、く、味、方、神

神岡(池)登り切所(小)支て敵を眼(下)直下(大)木(大)石を投落(又)下(奉)小
 矢を射る(あ)る(敵)大軍(あ)り(と)も(漂)の(乱)る(を)其(弊)小(乘)りて(伐)て(下)り(追)散(ん)
 小(勝)ど(と)の(更)有(ら)ず(と)と(船)中(小)大(墓)王(盤)具(王)お(と)り(宗)徒(の)夷(賊)小(二)千
 余(騎)と(授)て(田)守(と)獲(せ)高(丸)悪(路)王(八)千(騎)を(率)て(神)樂(岡)出(張)高(丸)
 三(千)騎(小)平(小)屯(一)悪(路)王(五)千(余)騎(小)山(上)と(り)登(り)て(陣)と(構)木(石)積
 貯(矢)束(解)て(待)け(り)斯(く)官(軍)二(万)五(千)騎(を)三(隊)小(分)先(陣)百(浴)王(俊)
 抵(二)陣(八)藤(原)真(就)鳥(三)陣(八)坂(上)田(村)九(一)勢(く)旗(旗)を(翻)隊(と)整(て)神(樂)
 岡(押)到(り)て(臨)見(る)小(賊)徒(山)上(小)屯(と)多(く)旗(旗)を(風)吹(麻)靡(一)戦(ひ)を(待)体
 たり(神)樂(岡)と(り)む(ま)の(高)山(小)も(あ)ら(さ)る(を)一(と)思(ひ)の(外)峰(高)く(攻)急(峻)小
 一(と)容(易)登(り)が(れ)小(賊)軍(山)上(小)充(満)れ(る)狂(急)攻(登)入(中)も(り)小(俊)哲(真)
 就(鳥)田(村)九(小)面(會)と(軍)議(と)る(小)田(村)九(小)曰(味)方(ハ)地(理)を(知)れ(る)先(山)上(の)地

勢(と)採(り)上(小)軍(略)を(定)む(り)と(兵)士(中)の(困)人(を)招(寄)山(上)の(地)理(を)向
 け(る)多(る)小(其)者(が)曰(此)岡(さ)の(大)山(と)や(り)お(も)い(ひ)ど(る)此(方)より(登)り(し)る(路)
 狭(く)峻(く)と(也)も(槍)多(く)生(茂)り(し)る(を)容(易)小(攻)登(り)が(れ)一(敵)を(釣)
 下(と)伐(り)と(と)登(る)を(い)ん(と)と(多)田(村)九(と)て(你)が(り)所(理)り(ぬ)れ(も)敵(ハ)
 險(阻)を(持)と(屯)を(し)釣(下)と(と)も(も)下(る)ず(と)一(と)絶(え)た(手)段(と)有
 と(て)急(小)攻(登)ん(と)も(せ)と(野)陣(を)張(て)守(禦)の(備)を(た)り(諸)士(率)と(多)く(出)
 て(芦)苴(直)を(數)多(す)切(と)七(手)頂(小)束(ま)せ(て)積(貯)安(岡)と(て)日(と)送(り)る(也)俊
 哲(真)就(鳥)其(意)を(あ)る(と)已(小)十(日)む(ら)の(日)次(歴)々(に)堪(へ)て(田)村(九)小(向)ひ(る)も
 何(ま)の(日)賊(軍)と(攻)伐(を)多(く)や(と)催(促)し(る)小(田)村(九)亦(ち)一(日)近(日)山(上)へ(攻)登
 り(命)今(暫)く(待)め(と)と(猶)徒(小)亦(過)ま(す)三(日)と(送)り(る)小(九)月(十)九(日)の(午)過(る)頃
 より(西)風(吹)出(り)日(の)暮(る)小(徒)小(漸)小(強)く(吹)々(る)小(と)田(村)九(率)小(命)と(積)貯

枯州小悉く火薬を洒せ、你們此枯州を一人五把で携て神樂園(夕闇)の内、暗に潜登り、如此くも入ると謀と言合て、凡二百人(もろく山)を奪奪、真就鳥、俊哲と招れ、今夜敵の山陣(夜討)をうらむ。各位出陣の準備、いと下され、を両将(中)に不知、案内の敵地と、殊更險阻の山坂を夜中、攻登人、吏、何あんと危む。及び征東大使の下知、あれを領掌とし、士卒小兵糧をつとむ、初更過る頃、出陣の準備、今、調ひたる、又、田村九、斯と達、是より、田村九隊、賦、自身先陣となし、二陣、俊哲、三陣、八真、就鳥と定め、夜討の、あ、い、われ、を袖符、付、相討を定め、二隊、に、押出、人、を、合、を、馬、を、縛、と、滑、と、坂、道、と、押、登、り、たり、是、より、前、田村九、が、山路、を、さ、せ、士卒、八、山中の樹林の中、潜り入、彼、枯草、と、此、所、彼、所、積、れ、相、闘、を、な、し、二百、余、人、日、小、焼、州、の、火、を、き、り、れ、を、勿、心、し、焼、くと、燒、を、折、り、も、秋、の、末、お、黄、枯、る、樹、木

お、あ、り、あ、り、も、檜、山、が、れ、火、の、煙、移、る、更、早、く、荒、吹、西、風、が、吹、ら、れ、暫、時、が、程、小、平、山の樹木、火、と、焼、れ、二、百、人、の、士、卒、平、場、小、寄、集、り、一、各、小、喊、を、嘯、と、並、び、り、此、時、田、村、九、が、勢、ハ、坂、を、半、よ、り、も、上、の、大、光、と、鯨、波、を、相、闘、し、大、い、喊、と、北、段、り、勇、を、進、入、で、攻、登、り、れ、二、陣、三、陣、も、是、の、機、を、得、先、陣、が、引、續、で、攻、登、り、り、賊、方、の、陣、中、京、軍、久、く、攻、上、り、ず、り、油、断、を、生、じ、今、夜、押、寄、り、と、思、い、よ、ぬ、所、小、俄、山、中、の、樹、木、煙、之、間、近、く、喊、の、聲、の、震、ひ、起、り、小、仰、天、浪、波、や、敵、軍、寄、た、る、と、ら、よ、太、刀、よ、と、年、特、に、強、動、鼎、の、粟、の、沸、が、て、り、加、え、お、と、檜、の、煙、を、更、あ、れ、を、稍、り、稍、り、火、傳、ひ、火、の、屑、の、落、る、更、火、雨、の、降、が、如、く、あ、れ、を、周、障、狼、狽、と、維、り、敵、と、支、え、ん、す、者、な、し、我、先、と、東、の、坂、に、敗、走、り、ける、官、軍、ハ、大、光、と、力、小、追、く、山、上、攻、上、り、周、障、送、入、賊、軍、と、追、け、追、結、討、程、小、夷、賊、討、く、者、數、知、ど、或、を、逃、れ、ん、と、谷、落、重、り、て、死、む、者、も、多、う、り、たり、大、將、忠、路、王、も、心、致、し、は、り

味方と制と敵を防んと声を涸と下知れども崩しきる勢のあり耳小
 突入る者もなく禁の高丸の陣をきりて敗下りくも又悪路王も力なくも小敗往
 味方小誘れは高丸の陣へを落行も高丸の陣小山上の大光と鯨波小鷲
 丸是ハ何妻の起しやとて追々作候と出さるち早山上より逃下り賊兵高丸の
 陣へあられくるも禁の賊軍も周障強だ京軍の夜討小奇しと心得同士
 討つと向著しり。田村丸小緒軍と励。此勢ひを弛む禁の敵を伐散せよ
 下知せしむふり。勝誘も官軍破竹の勢ひをかり十九夜の月ハ牙より喚た
 叫んで太山の崩る如く坂を落し高丸の陣へ伐てくる。さあれ小強乱し賊
 兵此強勢小恐怖し合も支も川辺の方敗走さるも悪路王も心強て
 行術を行く違もなく馬と拍て敗落高丸の官軍小取囲れ己小討さる
 小部下の士平大勢引返り。さう血路を切開れて救ひ出さる小依万死を

免き是も味方の船陣きりて敗走り。至領の二人さく如斯あれど。其餘の敗
 率們も八方へ散乱し己がさるる落行を官軍是を追討し或生捕各々
 分外の高名と頭しり。田村丸の地理を不知敵地を長追せを過ちあらん
 と銀鉦を鳴りて勢と班り。大糸凱歌を鼓て軍威を示し。其夜ハ山下小
 陣をとり軍馬の疲労を休め討取し首と点檢せしむるも首八百五十五級
 生捕二百七十余人とと記しり。去程小賊至高丸悪路王神樂岡の一戦小
 大糸兵を折れ今ハ勢ひ極り官軍小拒敵せん更も叶ふれ高丸大糸力と
 屈し。悪路王。大墓盤具們と議しり。敵將田村丸勇ありと且能兵攻用の
 奇針を以て大糸味方の兵士と折り。され一旦敵の銳氣と避り蝦夷地退
 丸嶋人を逼聚り。京軍都へ凱陣せ。後再び此國へ乱入して一兩を伐取んと
 如何と言々る小悪路王首と揮。否く勝敗ハ兵家の常なり。一兩度の敗軍小

氣を屈するは大丈夫の所業にあらず。今味方三千の軍兵あり、皆く此船陣と守
 りて銳氣を頼み、内にお散れず、兵卒も追く小池歸るを。其間小京軍長陣
 小退屈し、勇氣の抜るを待て一戦を催し。我も妙術を施して敵を拉ぶる
 む田村丸を虜おせん、更難うとていふ。大墓王盤具王もとも、小練
 る。是れ小依て高丸も其討小後ひ退去と止まり。船陣を守り離散せし
 士卒を招れ集めたる小神樂岡の敗軍、小逃散し、勇賊追く小飯聚り、又四
 千余騎を成りたる。田村丸俊哲、真就、鳥の三將、賊軍小勢ひの付る内
 小伐平さんと川辺まで押出して、屯と張川面をこころせむ。川の廣れ、更二里
 小余り水勢、岩石を流を絆小疾く。川の上下小舟一艘もなく。賊徒、大船
 八九艘、小舟に乗て東岸お屯たり。田村丸水練の者小命どて川の瀬おせし
 むる小深丸、更底をまきど。去るも水勢、矢を射る如く、あれを船竹伐お渡る

とも櫓擡水棹の三人、舟もなかりいとやわいと急小征伐せん、舟もなかり軍儀區の中
 て日を送るうち、弟石も金澹平愈。来り加りて敵と征伐の商儀、まじ
 たる。小賊軍、軍勢、倍り増く五千余騎、小たりんを。まきむ敵を當く
 先敗の耻辱と雪んと十月十日、小五艘の艦艘を乗出、官軍の陣、お向ひ
 たる。官軍の緒大将、是をせん。船と陸との合戦、利あり。敵と陸、鉤とて、代
 んと二里、斗退て屯たり。案のどく、賊兵四千五百余騎、陸へけり、上りて隊を
 立、喊を發り、鉦鼓を鳴りて、官軍の陣へけり、向ひ、矢を射りて、攻進む。官軍
 と待殺する、更あれは、何とぞ、喊を令、矢を射る。逸雄の若者、お早拔
 くれ、おてり、官軍、敵味方、さう合て、追つ返ら、大花を散りて、戦ひ、悪路
 王と戦ひの、夜合を令、馬上、お咒文を唱、幻術を行、かひなく。今を、暗
 天、俄、お、曇り、真々と、暗かり、悪風、吹起り、土砂を捲上、且、朦々と霧

降起て物の黒白も見えなから成れど官軍大少致れ須波す例の如く
 強だ惑ひ隊と乱と強之賊兵得たりと惣軍一度小進無二無三小切捲
 るおと官軍倍周陣して討者數をあると田村九兼てうる更も有んと
 歎類の血を多くして用意せしむ此時士平小命と空中一時散させくも
 例の如く風止霧霽零れも賊軍倍勢ひ猛く打まもおと山明する京軍
 足並を五敷一の支度路成て見えも何回より来しもまも二人乃沙
 門と烏帽子浄衣を著る社人忽と頭と出追来る賊軍小向の袖と
 てお拂ひを忽ち大風吹出賊軍と吹倒さる將基の約を倒さか如し
 小依て田村九真就鳥俊折弟上名銘味方と勵浪波賊徒ハ引色小成る
 と返せくと下知たを此號令小機を整官軍二ハ盛返と切進む又
 賊兵捲りまれて足場と敗退きも悪路王大少怒り再び兎文と唱へて

術を行ひれも何たるも平敢て悪風起らど霧降る也心中訝りあが
 射人小命と京軍小向の雨のどく矢を射させも小彼沙門官司側の岳も
 袖を打振れも賊方より射る矢秘及て賊徒の方へ向ひ却て賊兵を射る
 是がより射小まも者多し賊軍大少致れ是凡更あまどと恐惑ひ倍乱れ
 弊まるも官軍ハ強勇と大軍潮の湧が如く追進む其勢ひ決然と
 當り風ハ頻小強く吹る中も大墓盤具高九亦も敗る味方小誘れ己が
 陣を臨んで敗走する然る悪路王如何久意昏迷と途方と失ひ己が
 船陣も退を却て官軍の方へ馬と近入ると田村九が麾下の勇士も追取こ
 て馬より曳之浴かり重てど虜小する田村九小悦び此機小乗と濱手追
 追結よと下知を傳へ自身真先小馬と託させれ弟大呂以下の三将も諸勢と
 勵しも小濱手と追進する賊将高九大墓盤具亦ハ敗率と俱小濱手へ



毘沙門天
 地蔵の二尊
 雲中小頭
 田村九郎軍と
 援け

白雲山阿闍梨行...
 九郎...



皇朝言圃會林卷二

二七五



共二

皇朝言圃會林卷二

九三

逃着船より乗て陸を漕放るるところ小早田村九郎軍より来り船を臨んで
散く小矢を射りけり。賊軍は急小東岸へ漕去んとす。小彼沙門と宮
司西岸より漕き、虚空を麾けり。忽ち逆風大に吹起り、船と吹戻し、逆浪を
揚て船を洶上洶下とす。賊兵も大に恐る。船子も船楫もさく船
つて櫓擡て弄ひ船を東岸へ漕着ん。高丸も獲れ、船楫もさく船
子も下知を傳て在ると。田村九郎陸より遙か、五人張の弓小矢を、番南無
観世音菩薩此賊將を射り、ついでと祈念し、移ひを固り、實然て兵と銃す
小。其間百間むら漕ぎ、過ると高丸が胸板の正中と背と射通したる
と。元男の曲者も、急所の痛手小堪も、あま川中、真逆ふ落底の水屑と
成り、賊徒を頼り切ると首領と討と、大小氣力を落せ、上逆風逆浪の爲
小船と浪間へ覆され、溺死。あま川西岸へ吹着り、て官軍小討りも、

擒とあるも、妻らうらう。賊方の旗頭大臺王盤具王、六勢ひ、突りて、去平五百人を引
り。曹と脱弓と折り、田村九郎の千、降参り。征東使弟右副将俊哲、真就、其
勢も追く小弛来り。賊徒を討取生捕て、今、手小、敵もあやかり、残る賊船
を悉く焼捨、水煉の者小下知して、高丸の屍を尋求させて、首と、刻三軍大、小勝
喊を造り、猪軍と班り、小彼沙門と宮司、何地へ往え、更、行が、知れ、衆人
奇異の、更、小思ひ、各く、不審、暗さうらう。斯く、軍馬と休め、敵の首と、点檢する、小
二千三百級、小余り、生捕と降参の者、是、おと、千余人と、記し、る。去程、小凶徒、亡
び、尽し、る。翌日、陣拂ひし、生捕降人を、曳せ、く、國府へ、歸陣し、賊魁、悪路、主と、引
出して、殊、大熊、丸、高丸、首と、とも、小梟木、ふり、け、高札を、建て、國民を、安撫し、軍
卒と、諸方へ、分遣し、て、残黨と、悉く、搦捕せ、借、田村九郎、國、膽次、郡、小八幡、宮、乃
社を、建、高丸を、射、る、弓、箭、前と、奉納し、又、達谷、廣、小都、鞍馬寺と、換り、て、寺と

建之と毗沙門天の像を安置し兩所を奥州鎮護の宮寺とす。倭國中の政
 吏を執治め万端滞りなく調和し。遂に征東使弟右副使の三將と俱に
 諸軍と從（降人の重主者）率て十月上旬奥州を發足し都へ凱陣せ
 られける。誠小田村丸の智謀武勇前代いよ例を安む右今独歩の名將
 くと東八ヶ國の貴賤老若とも知もあぬも感賞せざるあかりたり。斯く
 征東使の諸將十月上旬小都（改著）真宗、泰内と夷賊誅小伏し奥州
 一四小平鈞、吉を奏聞せられしを帝、睿感淺くを軍功を深く御賞
 美在し疲勞を休むを御暇を給りて退出せしめり。其後諸將の
 強弱を安んじさせしめ、大伴弟右副使を誼んて初度の軍と仕損じす功も
 なく、俊哲、真就、鳥兩人と田村丸の令小頼、祖戦功を立就中田村丸、軍略と
 回し武勇と逞りて戦毎小勝、夷賊の張本大熊丸、悪路王高九の三兇賊

悉く手づから討取、國中の政吏を調和せしめ、比類あり勲功あり。睿聞小達
 くれむ御感斜めども、則ち田村丸を召れ、東征の軍功を御褒美在し、從
 三位小叙、征夷大將軍小任り、加増の采地を賜りける。田村丸大少始
 ひ厚く君恩を拜謝し、もつて退出せしめり。次小藤原真就、鳥、百濟王俊哲
 及び召きて忠賞を下され、独大伴弟右副使、微功ありを、御恩賞の御沙
 汰なく、閑居せしめ、由の詔命下りける。田村丸表茂奉り、今度奥州の降人
 る大墓盤具、兩人と夷賊の種類を、見所ある者、小に、渠們兩人を助命せ
 られ、小官を授け、以て奥州小住居させしむ。重て夷賊の乱妨せん、取鎮る小
 大少便と成、命と奏聞せられしを、帝、此儀如何あるを、群臣を召れて
 勅問あり、小公卿の中、大伴弟右副使、縁者有て、今度の御沙汰、小弟右副使
 あり、を以て、閑居仰せ付け、悔、田村丸が、援群の昇進を、妬めて、降人を助命

せんと願を言妨人と御評議の席に進み出被降参せず夷賊御助命の儀を
御無用なるをいん其故元来夷賊を禽撃ひくく勇慾殘忍小く信義
を知らざらん天恩と忘却と虎狼の心を生ぜん更治定かい渠門を奥州へ放ち
取らむ久き虎を山林に放ちて却る後の害は遺を理しては只一
こそ並るをくいとヤクを帝も理り不思召遂小殊戮在るを定より大墓
盤具とも河内國杉山に於て死罪を行れ其餘の降人田村九の乞ふ任せ悉
く助命ありと奥州へ放ち帰させむ

延鎮語西脇士奇特 田村九建三清水寺條

坂上田村九は東夷征伐の大功小因り官位昇進し御加増と給り家敏系采
の時を得られしを喜悅限りたり是併かゝる觀音大士の加護力小因所ありと
東山の延鎮が菴へ到られしを延鎮は己小觀音の像及び小脚立地藏を

門の像をも彫刻畢り田村九の飯浴あると待居るを大悦びて迎請し無
更小凱陣ありを賀し多小田村九延鎮小向ひ今度奥州の夷賊を伐平け君
の御感小預り官位昇進し一面を世施せし全く我力小ありと帝の御威光
と觀世音の加護力小因りとなりそれ小就て不思議の一義あり我奥州小於て
夷賊と合戦小及しと何國よりともあつて一人の沙門と一人の社人と覺し人出
来り忽ち天風を起し賊軍と吹仆し又袖を振る敵より射る者夫悉く飛及
て却る敵軍と射し賊軍大恐して斃走り濱手なる己が船へ逃乗し
其味方是を追う大川の舟より到るを夷賊ハ船を漕去んと己小中流まで到
し小件の沙門宮司より慈悲と現世出手とて虚空を麾けを再暴風吹起
り逆浪多し賊船を漂し是小依て我賊主を射落し夷賊を伐平し更
を得軍勢を班めて彼沙門と宮司と尋捜さむる小何地へ往久更その行

方とある者あり。情思む是神佛の應化乎や在。久最不思議の妻あり。や
 と語られんむ。延鎮せて腋を拍て感嘆。実難有脚更なる。脚物語小就て思
 合と更とてい。拙僧脚助情小依て觀世音の像と刻。余れる杖を以て脚
 之の地藏多門二像と刻。いひた。是小一日地藏多門の二像と拜。いひた。今
 更小や両像とも脚足泥小深。依て不審暗むいひ。今この脚物語と承り
 始り疑ひの心と用た。其時の沙門と此地藏菩薩宮司。此多門天なり。佛
 間を用て西脇ををせ。偕再曰。此二尊とも小觀世音の化身。小最利益多
 公の信心通。二尊遠く奥州まで到。公の軍と佐。朝敵と降。伏し。公
 也。偕。そ木像の脚足泥小塗れる。ふふと。感涙ととも。小語。多。小。田村。信
 肝小銘。て觀音至及地藏毗沙門を恭敬。禮拜して。佛恩を謝。奉り。延鎮の
 彫刻の至妙を賞美あり。此六佛恩報謝の。堂塔と造。と。と。契。

て歸館あり。音く良杖を買聚て音羽山運送させ。財物を格と。百工を励。と
 堂塔舞臺樓門坊舎鎮守の社殿あり。玉と磨。磨。て。魏。く。大伽藍を
 建。千。千。眼の觀世音と本尊と。地藏尊。多門天を西脇。士。と。安。置。せ
 られ。山上より清淨なる。飛泉流。き。落。る。成。以。て。音羽山清水寺と号。延鎮と
 以。て。用。基。と。せ。れ。る。然。お。じ。より。以。来。一。千。有。余。年。の。今。ふ。い。る。迄。堂。塔。の。壯。麗
 古。小。變。ら。む。法。燈。永。く。無。明。の。闇。を。照。り。利。生。千。古。如。小。て。當。寺。の。本。尊。小
 祈。誓。と。る。人。脚。利。益。と。蒙。ら。る。は。か。く。感。應。ある。更。御。音。の。物。小。應。む。と。如。誠
 小觀世音大慈大悲の誓何ま小疎。わ。り。と。い。ふ。も。殊。小。清。水。寺。の。觀。音。薩。垂
 と。垂。驗。あ。る。に。本。尊。な。れ。都。鄙。の。貴。賤。歩。と。運。更。日。夜。絶。間。あ。る。り。

乾臨閣御遊緒。緒。昇。進。 老人壽星出現大救事

星霜中。移。り。延。曆。三。十。二。年。壬。午。年。の。六。月。例。より。八。暑。氣。皓。く。り。り。と。れ。桓。武

天皇群臣と侍て神泉苑小御幸在。納涼の御遊を催され御入真あせられ
因小曰天子の御遊行を御幸とや古く君王御遊行ある所の人民おそれ
祿とよみ賑ひの由へ民悦びて君王の光臨の由を幸とするお基つき
て天子の御出遊を御幸と唱へし此称始なり。天子の御出遊を御幸と
書仙洞の御出遊を行幸と書し小和訓のみおれと續り

抑神泉苑とや平安城始て成就せし時周の文王の靈圃小准へ八町四方乃
池を堀築苑池中小社禮を宮造して八大龍王を鎮祭めし故小旱魃の
小神泉苑にて雨を祈るふ必むと靈驗あり。借池辺小殿閣を建乾臨閣と号し
り。是は且おいく。帝ハ諸臣下と從て乾臨閣に登らせり。御遊宴を催し
題を賜りて公卿小詩歌を詠吟させし其後管絃を催し小ひて。臣下の甲
小堪能の人をえとびとれくの役を命じ。茲小藤原百川が男小從四位下藤

原緒継といふ人ありて和琴の役小あり即ち和琴と彈ト多小元来緒継ハ雙
あれ和琴の名なり。其音殊小妙ありて満座の人ハ心耳と澄して忠感
嘆せざるなり。帝も緒継の和琴と深く御賞美在して天機嚴く御下
させり。管絃畢りて後再び御酒宴を隆かたの由て諸臣下天盃を給り
る。列位大少悦び難有頂戴し。これ酔と帯られし時小帝群臣小宜ひる
を朕いま皇太子なり。時先帝皇太子の御評議在。是は緒継ハ又故有
朕と太子小まんと奏し。緒大臣朕ハ母の素姓卑れを乞ふ是と遮り妨り
おとす。百川度々の評定小志を屈せし。五十日ハ間殿中退き。昼夜睡眠す
吏が。數奏せり。先帝其忠膽の擣るるを感在て。遂小百川が願小任せ
朕と太子小まんと。朕不徳の身を以て今日まで帝祚を受。今此歡樂とよ
も偏小百川が賜たり。其時百川無うせむ豈吏茲小及んや。されを朕と生

者父母也朕達者有百川命也茲朕片時也百川之功也亮
 今緒繼者年たるといふも父が忠勤の故を以て今より參議小任するや卿
 朕を異む更勿きと宣ひ即座小緒繼を參議小任しむる緒繼此時
 二十九才なり父の餘功に依て俄小高官小昇進一塵小美目を絶し大不悦
 厚く帝恩を感拜しむる去程小日暮夜少ありを殿中小玉燈數
 香点小各香を多く薫せむの金花殿玉燈の影小耀れ蘭香公
 卿の衣紋小芳里君臣も小樂と與し御遊數劇小及ひ遂小涼風小乘
 して大裡還御なりむる同年十月朔日冬至小相値しむる百官百司大
 内參内表と上りて朔旦の夕至を慶賀しむるこれ十月朔日冬至至の
 値るいづも芽出度更して漢土の中古より身を賀せり殊更此頃天小老
 人壽星現むる傍天下太平の祥瑞なりと臣下二門小萬歳と唱むる

帝も大不睿感存天機殊小嚴く詔り天下と宣く
 天地覆壽時小順ひ氣と播して皇王享育り物を利仁を弘む
 朕寡昧を以て鳩基小嗣登り万類を撫養と政道洽れと無
 方小思南薰惠澤未小淳く尚東戸小慙比右司奏稱す
 老人星見ると又今年十月朔且冬至也百官表賀て曰軒轅之年室
 鼎社を早陶唐之世金精圖を表と誓昔之小天之祐る所古今寧
 殊かり可久可長れ功不召而方小至り太平大同之化不言自成朕
 慙思て凱澤と施難れを以て天情小答自延曆二十二年昧爽以
 前の伎罪以下無輕重悉皆赦除く八虐故殺強竊の二犯一私
 小錢を鑄常赦の所不免の者赦の限不在と云
 右の詔書と普く諸國巡りて天下小大赦を行ひしむる是れ依て諸州の

罪囚牢獄を出し赦され悦ぶ更太々あまを皆帝の御仁徳を称し先非を
改め正路小飯り多る故小御代益恭平小て万民業と樂む日月相照し五穀豊
熟く多る斯く年月推移り延暦二十二年の春とかりなまふ二月の比より帝御
不例小らとせむひを緒御百官大心と痛む和氣丹波の医官小命じて良
方と撰ませて靈薬を献りぬ神社と奉幣使を立佛院小御恒平愈の大法
秘方を修せられたる然小陸陽の博士勘文を上り今度の御悩ひ死霊の為
とまふ小いと奏不きふ緒御高儀ありて借尚早良太子の死霊の祟り
たる也其憤靈を鎮んて區く小儀せられと帝聞食て大臣を召れて宣
ひまハ朕が今般の違例を早良太子の怨霊の祟ありと儀を言ふ是公の
外の僻吏なり彼太子の憤靈ハ已小先年一社の神小鎮祭り其霊を宥めよ
以來絶く崇とあまふ然年月久くして今も朕小崇をふと縋わん御

あれ義小國の賊を費さんより鰥寡孤獨の窮民小米錢を与へ施と下と
勅詔在るれ大臣達大感感伏し其勅詔の御心を緒司百官云渡
一普く鰥寡孤獨の者小米錢を施されたる其御仁徳小所由や見追
て御悩平愈あせむひを上下皆万歳を唱て悦び其翌年延暦二
十五年丙戌の春帝七旬小あせむ小御老年也小やきて御悩とやむ
の御吏もたむ只後初小少御のひ小三月十七日遂小崩御なりひ親
王女御緒臣下ハ心更なり此君の化沢を蒙り天が下の万民皆赤子乃父
母と亡ひ涙注せむハあま多る斯て尊嚴と玉棺小収り山城國紀伊郡
柏原の山陵小葬りもれり御在位二十五年実年七十歳とて中えさせ
るひより皇子方百官百司末の輩まで諒圖小使電り御忌明て后緒御詮
議ありて皇太子安殿親王と帝位小即もれり平城天皇手とハ此君かり

平城天皇御即位 讓位 嵯峨天皇受禪南都擾乱

人皇五十一代平城天皇と申すは桓武天皇第一の皇子小て御緯日本根子天
排國高彦尊又の御名八安殿親王御母藤原乙午漏と申す藤原の冬
継公の御女なり御即位の大禮を行れ延暦二十五年と改め大同元年と曆号
と改元あり御弟宮神野親王を春宮小とす御外祖内大臣藤原又と継公小
正二位太政大臣を贈りゆひたり此帝天性儒学と好せゆ又詩文小長とす
御踐祚の始より大学寮と儲と諸皇子及び五位以上の子息十才小成ゆを
学校へ入せ經学とせゆ又右司小詔命と下と宣く今世上小妖僧奸巫の徒
多くと神託と又小托と妻小福を説禍を唱へ愚昧の庶民婦女の徒を
惑へ賤帛と合片り取故小愚不肖の者妖僧奸巫の言と信とて國風を損へ正道
を不知甚とて茲を去ると自今以後妖僧奸巫の徒を堅く禁ととる

の六道の諸國小觀察使を定めり守護國司諸官吏の私曲惡政と駭
く絀めさせしむる先東海道ハ參議從三位藤原葛野九西海道ハ參議從
三位藤原源經至山陰道ハ參議從四位藤原緒繼山陽道ハ參議正四位下皇
大弟傳藤原園人北陸道ハ從四位下杉篠安人南海道ハ從四位下吉備朝
臣泉等たり如此万機の政道正と三綱五常の道を推弘め万民悦休
て四海波靜小いと昌平の御代たりる忽と不時の珍更出来たり其故と探
りて小帝の御弟伊豫親王と申す先帝の第四の宮小て又帝殊更御電變の
宮おれ其御威光皇太子小おきり劣りむと諸人尊敬とて常小緒方乃
使者門前小市とたり自出度富采のひたる先帝崩御かひ後日小御
威勢衰小伺候とる公卿も次第小減小万更寂寥と成行々小伊豫親王
御心快とて樂とむと諸更衰微とる小就く往日の威勢隆入あり更と

思ひ出され御母藤原土早とも移り変る世を恨み帝の御威光と羨み如
 母子とも心頭を焼されも憤念積りておろちげあぬ大望を思ひまひ帝
 を傾け奉り我万葉の位を踐むと不軌の企を心お生せられぬもの大切乃義
 めれ猥りふ外もむつを其更とかく時緒卿の心引弒して是彼と荷
 擔の人をうごひのひる。其中小藤原宗成といふ人あり生得子慈おく他人の
 富貴を妬み其身の威權を隆んおせんとおの更多年あり此頃伊豫親王
 の為体大吏と思ふ所な機ある公察し是寃責の吏よと思ひ辨と親く
 親王の起居と訪ひ進せ物結の端先帝の御代いさも時めた榮のいふ
 今の帝の御代なつて君の御威光ハ漸く薄しお行候とる公卿も稀く小成
 行の吏の御痛く先帝ハ皇子あまも御座在中もとる君を御寵愛
 在り皇太子もまゝおられた睿慮おておろちると内大臣冬継其身外戚と

成て威を震んと帝と惑ハ我女の腹お出生在り安殿親王を皇太子小定
 めと勧めまじり帝も冬継の約束おまきおの安殿皇子と儲君とかりのい
 先帝の睿慮の俣あむ君と九五の位を踐りいさそ井出度おちまじ
 らおあぬ御謀叛を思ふとい言ぬむるお中更度お及られを伊豫親王と
 渡お船を得るご大悦びの透お心術と明のひて宗成と密謀を示
 一命のい内おて甲冑弓矢を取寄思お緒國の武士まゝのひのひるお好
 事門を出せ悪事千里をまらちの早其風統所お編敵とると右大臣
 内上石渕おて是ハ大吏の義おと預られぬものお実否をまじれさすて
 奏達せんも如何と猶口外もせむ世上の風聞お窺れぬる小内大呂の縁体おる
 播磨國の武士何某親王より味方頼との書を宗成が密状を持奉
 して哀お内大呂お呈しを借世上の風統疑おるおあむとて急お泰内

伊豫親王隱謀を企めんと奏聞ありしを帝大に疑うせり。先宗
 成を賜り寄て搦捕糾向せりと宣ふ。内大臣領堂、宗成が方へ使者
 を遣ひ、朝廷の政変不就て急命せしむ。義あり急いで参内ありと云
 々。天命の尽るところ。宗成は己が密謀の事とハ、其の由もあらずと云
 召し心得何心なく参内。参内と兼、屏風の蔭に隠れ居る武士ども顯出
 矢庭に捕て伏牛特くと搦め。右大臣斯と言上り、これを即ち右司の手へ曳
 させ緊く糾向せられし。宗成陳謝の詞なく遁まがると覺期。伊豫
 親王の御頼み依て己更と傳はず。荷擔せし旨と白状し。自余の一味の輩の名
 なく遂一ふやぐる。是も依て先宗成を禁獄し。親王と擒おせんとて在。將
 安部是雄左兵衛督巨勢野足兩人の官兵百五十余人を差添親王の脚
 所を取囲せしむ。親王斯とまひひて大に疑はれし。内大臣の隱謀早露顯せし

あめと強だ惑ひ是ハ如何せん。躊躇去む。武士ども追々入親王を
 脚母吉子と虜おし。籠の男女も残む。召捕右司の廳へ曳し。斯て帝ハ
 群臣と召して御詮議あり。親王母子と川原寺の二房を押籠厳く監率と
 置て守せり。儲藤原宗成ハ逆意と勸り。大罪あれを殊戮させしむ。を
 れあへども先帝崩御なり。ひいていさ。幾程もあられをて。死罪一等と省
 佐渡國へ流罪おされ。其余一味の輩も罪の輕重に従ひ流刑す。追放し
 り。儲も親王母子の密謀の露顯せし。恨み憤りも俱に飲食と断
 終お母子とも川原寺おて餓死せしむ。噫愚あるるか。伊豫親王近々早
 良太子の例を知り。人倫の道を弁む。天の容ぬ王位を望む。脚身のみ
 あらむ。母堂を先く親族他人も。禍を及し。不弟不義の惡名を遺し。十
 載の青史を汚し。自ら業自得と云ひ。浅穢し。更あり。去程

皇統記圖會後篇卷二

卅三

小叛逆の後亡びて都の強動も静りしれど帝ハ朝政ハ心を委ぬひて緒
 固より松るところの紆松とて盡く御身自判断なりハ罪を怪く賞を
 重くかりぬく事都鄙の人民奉て帝徳を賛美し多。大同三年醫官出
 雲廣負大同類聚方百卷と撰で上り多。日本医書の始なり。帝大ニ睿感
 在し重く賞禄を給ひぬ。然し伊豫親王の怨霊頻小宗成たり種く乃怪
 異を見し人民を悩めしれ。諸人は是為小死亡する者多。皆大ニ怖れ愁多
 大同四年の正月より帝も親王の憤霊の祟りて御怒度く及むせり天下乃
 政事を裁判かりしり。頼り思召遂小室位を下らせり。帝祚を春宮神野
 親王小讓せり。御在位僅小四年なり。儲神野太子御即位在り。大禮
 成執行せり。此君を入皇五十二代嵯峨天皇と申せり。桓武天皇第二の皇
 子小て御母ハ平城天皇と曰母なり。御踐祚の後先帝城小太上天皇の尊号

を奉りぬ。大同四年と改め弘仁元年と改えあり多。其年の秋太上天皇乃御
 坐より下り奈良の旧都小宮室を造管あらんとて。緒國より工匠ハ諸職人
 二千五百人を召上り坂上田村丸藤原冬経を造管使し藤原仲成を
 奉行とて経営と急げせり。これを宮殿速小成就し。十年十月太上天皇平城
 の新宮遷幸なり。是小就院糸の公卿皆供奉せり。其後嵯峨天皇も
 平城の新宮へ鳳輦と環し。この宮室の成就を賀し。是朝親の御幸ハ
 起源なり。此年右大臣内大臣小紫の朝服を勅許あり多。是大臣紫服と者
 なる始なり。然し太上天皇ハさし聖明の君小あり。伊豫親王の怨霊
 障碍をたし多。平城の仙洞遷りぬ。後ハ放心志む。御僻事
 多。以前の明德薄ら死ぬ。御在位の時より電愛あり。藤原仲成ハ妹の尚
 侍茶子とて容顏美麗あり。婦人有る多。此茶子面貌を衆小勝れ。性

貨倭奸めて己お劣れる八梅り己お勝れる八如と奸智逞しれを言と巧め色と
 令しと帝小媚御電愛不誘て万更を只一仙洞の御政更八大小となく茶子心
 任せふたりと非義の更のそ多れども君の御意小叶し女多れむ否難をり人由お
 却と院泰の公卿八皆茶子小賄賂を贈り其心小合ん更と欲しと更茶子の
 威勢追く盛ふたりとさかか中宮女御の如し加えあま茶子が兄の仲成もす邪智
 奸曲の倭人めて妹の権威を借て身と矯り緒人を土芥の如し直下し己小阿る者
 君前と善中不中か己お使はざる八君小統して官位と損し偏小唐の揚國忠所
 行小異あるともさくも太上皇是を咎めむむ忠臣たりとの思召るるど薄情
 りりる。仲成曾て民部大夫江人との人の女を取て妻室とくも其妻の嫉小
 被衣とて容顔麗れ女ありて或公卿小嫁て在ると仲成一度被衣と見て懸想し
 夫ある女とも憚らむと數通の艶書と贈り又八對面する折八あつけ小口説くも

どの被衣夫ある身と貞操正しれ女あれを更承れと難面てのそとあ過る仲
 成果堪え一日被衣が我館来りると強て一室へ伴ひ行百般口説くも女
 を猶も辞しれむ仲成怒り女を引伏乗せつ刀と被其胸小き當我が斯
 程まで口説小猶も心小従はむん今一刀小刺殺し你が夫をも君小殺して重く刑小
 行小せしと言劫らるる女口注沈し左右の器しおと在ると仲成理不承小
 姪一辱しめ其伴留め置遂小己が妻おとる。被衣の夫を是を更と深く
 仲成を恨み憤り君の御意小入茶子が兄あれを論せせむ却て讒害し
 且人更と慮り無念か其伴あり置くは是亦の悪行の外不義私曲の所
 行度重りれを諸人内へ茶子兄妹を己心悪ぬたうりる。法小嗟哉天皇も
 いかに春宮小在りる頃より茶子が奸倭あるとも知召れぬ深か如た婦
 悪の妬婦と君の御側小侍しめて八始終の御為耳うもとて折節小練奏

一のいふれども帝ハ最愛の皇子あれを御許客しむるがうたふ皇子の此妻を
知る春宮と深く恨み折れあふ君の縁を奏して春宮と追退んぬると巧むる不
却と帝位を下らせの春宮帝位即ちひくも案小相違し平城新
宮移りて後兄仲成と心を合し太上皇と帝の御中と不和し遂に太上皇
小重祚を勸奉り嵯峨天皇の御位を奪んと恐る大望を企事し君を媚て
其御心を湯し此所ハ池を掘せり彼所ハ墓と建ると勸めり四季折く
小姪樂橋奢の御遊をよせしむるも賤室の費夥しく偏小殿の討王
周の幽王の奢お比し京都よりの御賄金も數百萬兩及び大和都の御手支と
なり後平城より言遣はしるも金銀も滞りしむるも是れ依て皇子又
帝の御更を上皇絶りたる今帝は春宮おておる時妾お懸想しむ
ひ度く文を賜り又八人傳お口鏡のいりども妾君の御恩を承れむ争り春

宮の御心小従操を汚しむるも只難面々捨侍し春宮深く妾
を恨み思ひ承れ此此御所より御賄ひの更と京都中遣せど
も十が一あてハ贈り給ふも皆是妾と憎めしむるも願ひ君再び
御位ハ復しむ此地を留め都ろ方機の政事を行ひし然ハ何も御
遊も御意お任せませぬ此妻も睿慮お任せむと兄仲成小宣旨と給
りて近國の武士をこゝせの京都と攻て帝と廢しんと時小勸めま
りれむ上皇ハ皇子の愛小溺しむ其密言小御意湯け遂小重祚の
御心牛數通の院宣を遊し仲成小給り近國の武士とせのひ々噫熱
いふまの明君も蛾眉奸佞の巧言小迷ひの前車の覆り一絨をお忘れ
りて薄情なり仲成ハ君の密詔を奉りて大不悦ひ須波青雲の期未か
上皇重祚一むむ妹皇子ハ女御となり我を攝政の極官小登り數々の國を

領一榮曜歡樂を心の依り。子孫の後業を計らんとの天の照覧を不顧し
て。密く近國の武士小院宣を傳へ上皇の御味方小招れり。思ふに隠
るより頭あるはかりとの謗言あるを。上皇御隠謀の密吏維く洩らん早
くも平安城の帝國へ。さえを帝大系致るを。急だ坂上田村丸を召きて火
急小平城の旧都へ。馳向の上皇小御謀を勸め。奸徒を悉く搦捕て。立
取る。命と詔命あるを。田村丸領掌。糸織屋綿丸を副將と。官兵
二千余騎を引率。都に幾足せん。帝。上皇小宮。まんと。更と。歎
く。思召。去年唐より帰朝せ。釈空海。二ふれ。御依僧。あれ。空海。召れて
今度の擾乱速小平定と。命。東寺の八幡宮の社檀を建。細小。祈。とな。る
を。一と。命。い。れ。空海。勅命。奉。即ち。東寺。社殿。建。八幡宮。を。勸
請。朝敵降伏の秘法を。修。せ。ん。今。の。東寺。の。八幡宮。是。なり。去。程。小

田村丸と武略小頼丸大将あれども。太上皇奸徒小勸られ。他國へ
三洛させ。の。更。や。慮。り。途。中。軍。勢。を。定。八幡山崎宇治初瀬其
余切所。毎。小。差。遣。一。自。身。綿丸。俱。小。採。小。ん。平城。へ。進。發。せ。れ
る。此。義。早。く。平城。へ。上。皇。大。小。傳。動。し。も。い。ま。味。方。乃。武。士
來。り。小。敵。此。宮。へ。引。受。て。防。禦。せん。更。叶。せ。ば。是。ハ。如何。と。命。れ
と。急。小。仲。成。を。召。れ。御。高。議。あり。小。仲。成。も。わ。だ。火。急。小。密。吏。露。顯
を。命。れ。思。召。る。願。心。周。障。あ。り。君。小。向。ひ。如。是。小。君。ハ。且。近
江路。へ。送。させ。の。伊。勢。の。せ。其。間。小。臣。味。方。の。武。士。を。招。れ。集
め。旗。を。翻。へ。と。京。軍。と。一。戦。聖。運。を。用。せ。ん。と。三。洛。著。貞。小。奏。し。る
上。皇。其。初。小。徒。ひ。の。子。及。び。女。官。も。召。具。一。取。物。と。り。更。玉。を。省。衛
の。武。士。小。召。連。の。龍。駕。を。促。し。宮。中。と。出。川。口。の。路。より。近。江路。を。ま。り

落ちのひき。仲成も有合手勢七十騎を従へ。武具小身と堅め。是も平城を歩
 まて東國へいんと馬を逸れ馳行する小程なく田村九軍と率て追躰来り
 十里小響音一大喜と上奸賊仲成走る度勿き坂上田村九勅命小依て向す
 と呼りける。其声雷霆の如くありを馬に此声怖きて狂り得ざる症
 不成て嘶り。仲成も頭上より雷の落くる如く覺へ馬上小戦慄たあが馬
 残拍で逃んと身を操るも小早田村九勅命を早も追迫者も仲成が手
 の者主を落さるに廿騎をより抜連ておてくる。田村九勅命とて例の大太刀
 抜るも雷光の如く閃りて一太刀小三人を薙居るを。残る兵士亦大不
 怖き蜘蛛の子と散りて。主と捨て逃散り其隙小仲成はよと馬を強
 ぎて逃ると田村九馬を和と追者猿臂を伸くと小兒の如く搔抓大地
 唾と投ぐる小余り強く投しおや。仲成は五臓砕け其血を吐てど死し

ころろの王と討きて郎黨亦皆散る。小落失れを田村九、仲成が屍を馬
 小結付て曳せ仙洞御所へ引返り。且上皇和州添上郡まで到り所
 小前路の右近衛住吉豊継二軍と中て道を遮り塞たれ。進むるも度
 能く安置の方の敵有と見え其四方の出口未だ敵軍固り。よりあれ
 たりや。又とどくと平城へ環らせ。小己小京軍充滿。諸卿諸官人々か
 虜小せられ由也えたる小より上皇途方小昏のひと。田村九勅命を以て迎へ
 ちり茶子と俱小常の御殿へ押籠す。廿番兵小四方を衛護せ。隠謀の
 余黨を緊く尋搜する。上皇今更御後悔在。陳謝し。小命を乞ふ。御殿
 おり。まもる。俄小脚髪を剃拂各のひ脚出家の体小あ。せ。御殿
 けり。小婦茶子。此脚有。多。然。我身の罪科免。せ。死。妻を
 察し。遂小自ら刃小申。死。り。ち。天罰の程。を。浅。後。斯。て。田村九綿九

以下の緒將諸軍小虜と曳仲成が屍を昇せき京都へ凱陣し更の始末を
 奏聞しを帝緒將の勲功を御賞美在しを御忠賞を給り虜の
 輩と糾問しを今度御謀殺を勸せり八葉子仲成が所為あり比旨白状
 し衆口同くを仲成が首と刻きて梟木小肆させ茶子の屍八野外に
 捨てし其余擒の輩八罪の罪重小従ひ或は死刑する流刑追放亦行ハ
 せしひたり春宮高岳親王八一点の罪もあさましきもの上皇の皇子あはし御
 身を愧ひ位と辞し御出家あつて空海和尚の徒弟と多法名と真如とを
 改めひひる是小依て桓武天皇弟三の皇子大伴親王と春宮小三のひり
 後小淳和天皇とやなるハ此君たり抑藤原仲成ハ大職冠鎌足公の後胤とて
 正三位藤原宇合の曾孫贈太政大臣維経の嫡男とて氏素性正に名家の
 種たりたる小一時の虎威小乘ト及ぬ望と起し君小隠謀と勸め奉り兄妹

とも天年と終ど首と梟木小掛られて鴛鳥の啄まれ屍を野外小捨られて狗狐
 の餌となり。臭名を万代小遺せるも皆其身の不良より起る所なり慎み恐るべし
 天皇賀茂齊院御幸 右智子齊院詩作條
 弘仁二年嵯峨天皇の皇女有智子内親王を以て賀茂齊院と名け伊勢齋宮
 小准し有智賀茂小齊院を置るハ始かり此有智子内親王と申ハ女儀を以て
 御幼少の時より文学と好むひ御年若く在と頃已小和漢の書籍小通じひ
 兼てハ詩文を善あるひくも御又帝殊更鍾愛しひたり後年小ひり弘仁
 十四年の春帝賀茂の齋院の山荘御幸在し花の宴と催しひ春日山荘とて
 題を出され供奉の月卿雲客小詩を賦せし有智小依て列位韻を探り礎を定
 る小有智子齋院も塘先行蒼君の四字を探得し少時のうち小七言律乃
 詩を賦しひ即時小箋を拂て毫を添り二座の公卿其速たるを疑は感

皇朝詩話會後集卷之二
帝も龍顏展くより寄て御覽ある其御詩曰

春日山莊

寂く幽莊送樹裏
棲林孤鳥識春澤
泉聲近報新雷響
從此更知恩顧渥
仙輿一降一池塘
隱澗寒花見日光
山色高晴舊雨行
生涯何以答穹蒼

時小右智子公主十七才ふどかりなる帝再三吟みして甚ぶ御賞美かり

の御感のあやう宸翰を渾身の懐と書して公主小給く其御製小曰

恭以文章著國家
即今永抱幽貞意
莫將榮樂負煙霞
無事終須遺歲華

此日公主小三位の位を授りし百戸の采地と進せりいなり其後天長十年小二位

小叙し其後齊院を下りて嵯峨小静推の山莊を宮に召され授任のい雨

小風月と翫ひ給ふ承和十四年小春秋四十一才と薨去りいなり御遺言小

其葬式薄し無益の更ふ世の財を費と更ふとこれ宜しとと緘小至尊

乃皇女小和漢例小なる賢女とておりなる却て鏡弘仁二年の夏大納言右

大將正三位坂上大宿祢田村九栗田の別荘に於て薨去有るり遇齡五十才

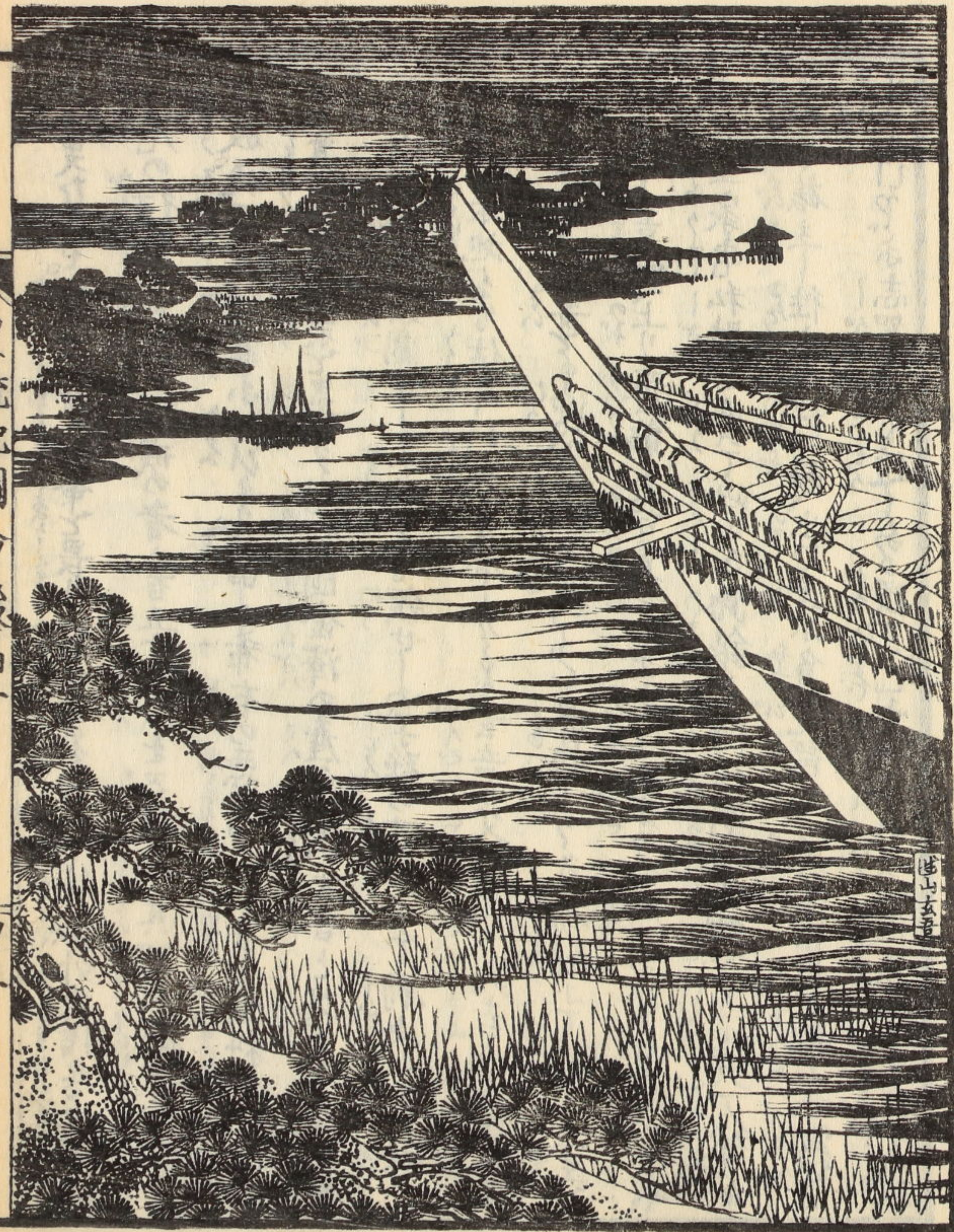
わん帝甚ぶ惜ませの勅使を玄絹布采錢亦と若干給りたり又勅詔あり

て其亡骸小甲冑と看せ劔鉞弓矢前等と添て棺小収り宇治郡小栗栖野小

於る王城の方向に於て葬らせりいなり其威靈小永く帝都を護せりい

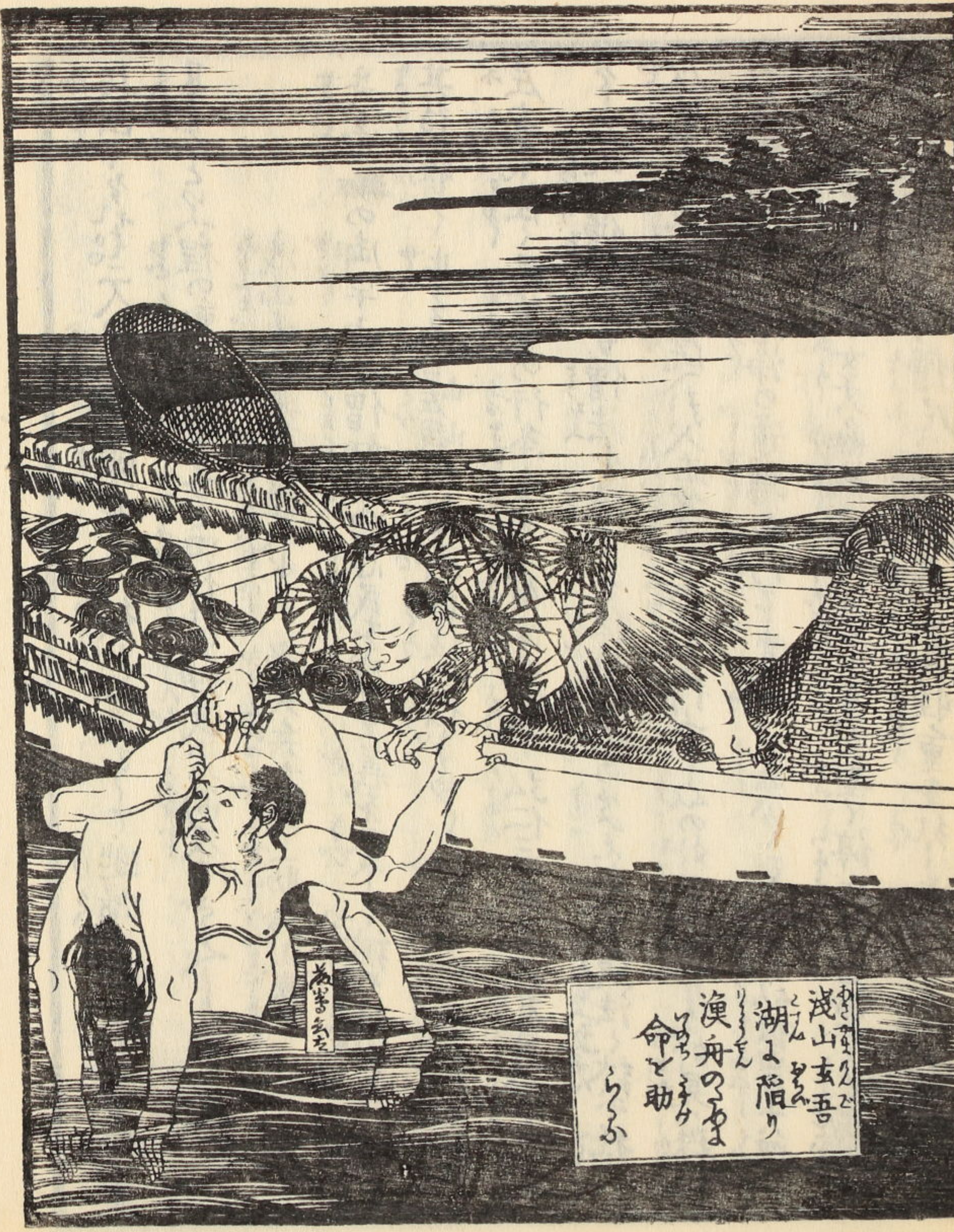
向つて小賊軍田村九が下向するとして其叶ひがたを知て戦さる以前小退
 去或を降参し適拒敵者八滅亡せざるはあらず年上皇御謀叛の初小藤
 原仲成を追蒐て一声呼りり其声小恐して仲成が馬瘡主ハ戦慄して働
 く更熊八まり瓜公て其威武を知り昔晋の世小蔡裔とて其家傑ありて
 力量膽畧衆小勝と声雷の如かりりる蔡裔袁州の刺史とかりりる比天
 下小名を得る強盜二人蔡裔の家へ竊入て貨財を偷取んと梁の上小身と
 潜ひ窺ひ居る小蔡裔是を知て床を拊て大音小崩賊大膽小由我賊と偷
 んととととと呼りりる二賊其声小強たて梁の上より下へ倒と落北ととと
 起更熊ととと蔡裔大の笑ひ儲も臆病ある賊ととと今ハ一命と助け歸り
 得きととと再び我家へ忍入更カ疾く歸去と言れども二人も脚瘻て去
 得ととと春蝨たるととと蔡裔又ととと二人を狗子あふの如く両手小抓提り門外へ

投出されたる入の強盜八頭をく後然もとととて逃歸りてとととと
 是どととと程の勲功もゆえととと田村九の神武小高尚及むとととと
 浅山玄五遭盜難入水 漁夫兵太湖上助浅山事
 先帝御の御宇小妖僧奸巫の愚民を惑ととと義を聚く緘り禁示のひりくを
 其後小僧止る小嵯峨天皇御即位の後ととと緒方小破戒無慙乃僧
 尾有ととと往く尾筆の行条有ととと睿聞小達一弘仁三年五月有司詔命在
 々々此比僧尼も僧法を慎むととと犯戒邪淫の史えあつて説法ととと然小托
 俗家の男女戒寺院へ引入右等の不法を行す公の外曲更なり外見ハ殊勝
 の体小えせ実ととと清浄の道場を汚ととと更甚ととと然ととと自今以後田刀子獵小
 尼寺へ入更を禁平小女子ハ無故ととと僧房へ入更を堅く傳止せむととと若尚提と
 守ととと破戒侵犯の僧尼ハ及く召捕罪の莊重を糾ととととれく罪科小行ととと



皇統記圖會後集卷三

淺山玄吾



皇統記圖會後集卷三

淺山玄吾
湖に陥り
漁舟のあま
命を助
けし

四十一

との更なれを。右司の輩勅命と畏り官吏を分つて洛中洛外の僧房尼寺の
 僧尼の行余を中破戒の者八百五十余人を召捕皆其罪の涯重小依
 追放流罪死刑等を行ひ其の中希有の悪僧三人有て嚴科小所せれ
 たり其犯戒の始末を尋るふ加賀國金澤の産小浅山玄吾と云る者あり生年
 二十六者先祖系圖正しく小地をも領せし子孫の世とわうて漸次小義微
 所領の系地をも估却ひ幽小暮り々々玄吾が父母ハ早く死去し玄吾ハ独
 身となりひさし妻をも迎へられ玄吾つら思惟しける扁鄙小て碌くと生と
 過さんより京師へ上り藝能を習覚を言え何方の公卿へありとも奉公せよ
 と思ふ家宅私財を賣て些少の路銀を得任馴し古御と立出只入都を
 志しと旅立往て近江路へ出た名小負琵琶湖の風景小目を悦むを湖邊と
 歩いて行む志智の里も近くある頃日己小黄昏小及び往來の人小稀く小成

るれむ玄吾ハ宿を求め急ぐ折もあれ忽山下の茂村の内より四五人の盜賊頭
 出出玄吾を取圍て有無を言せむ理不尽小衣服を剥取路銀をも奪
 ち赤裸小かたて猶踏つ蹴つち擲し何回ともなく逃去らるる玄吾ハ夢小夢
 入心地の杖柱も憑し路銀二錢も残らんと奪れ衣服入り剥きと擲
 鼻禪一ツ成ひと悩む忙然とるるが夜嵐の身小まむ小思ひくると
 我都小親類縁者もたず朋友知音もあらず赤裸小かたし上るもむ
 食せんより外小せんを金かきおま中ある望を盡し更茲小及むるハ身の宿運の
 尽ある處一今ハ中く世の人小恥を肆さん朽借所詮此湖水小身を沈めて死
 んものと涙を佛名を唱は合掌して湖の中へんふとど飛込る然小玄吾
 命數いさぐ尽るるや折し一艘の漁船漕来り人の捨身せはんを比し其
 水中私に玄吾と右手の小服小抱し遊し我舟へ上り傾て玄吾が水と吐し

耳小口を寄せて敷声呼活々るふぞいまも入水と幾程も間をたれど頓く息吹入
二懸りたる漁夫も舟を小者小漕せ其身ハ用意の事を採出して去吾小服より
湯に又て从抱しさるおも如何なる妻来て捨身せられやと問ふ。去吾涙あがり
國を出て都上人。盗賊に遭て衣服金子を奪れ馬方あさふ投身せしめて五
一十と絡まれば漁夫ハ其薄命と哀れ憐れこれハ懐悩ある妻も此比此辺の山下小
盗賊隠栖が毎夜旅人を剥取の噂を黄昏より往來する人も和殿
遠國より来りさる妻も去るも通られぬ盗賊に剥きあめ左有むとて賊ま
世の廻り物なり身と投て死る妻や有る先我家来りを氣と鎮て保難せられ
よ左も右もと京奉公せらるる中ふ針の進を分ると世小頼母く言々る也去
吾ハ地獄にて苦菩薩の遇一如く大糸悦び其深情をわね礼謝する漁夫去
吾小竹と身小纏ハせ火かあせせむとすうち船ハ堅田村なる漁夫の家の裏へと

著る。斯て小者船と繁れ漁せ魚籠と網と成推し漁夫を擗擗せり
去吾と伴い。後戸を叩て我家入小女主の心をなむ。鯨夫が。諸主翁と
小者小命と電の下に焚せ其身ハ古糸衣とより出て去吾小著せ岡ヶ裡
小柴少されて俱小火あさる。借も和殿の生圃ハ何國にて何のあ京へ上るやと
問ふ。去吾各々。我ハ加州金沢の産小て浅山去吾と呼る者小てハ先刺ゆ
告ぐ。若年小て父母ハ此去扁鄙の住居も懶。都へ上り何の藝をわたりも
習ハ相應の奉公をせん。家宅綱度然沽却て路銀と都と志し此國ま
て来り。針小を盗賊に遭て此時宜小及びいと絡まると主翁安て其ハ難波ある
妻あがらるの怒とせられ。如く浅狭た漁夫あれも。我ハ以前ハ藤嶋
兵太とて武末切米也も食し者ある。王家退轉の後ハ浪くして産業あはれ
此浦へ来り漁を業とて露命と救る。妻ハ四年以前小死去一人の女と

去々羊京都へ奉公の上。身ハ鯨おて死期の来るを待のりあり世渡の産業
 と、言まがら老羊よりて身鱗出の命と取罪深丸事と心小悔ぬ日
 とてわや。然不斗和殿の命と助け身小らうて善滅罪あり。此少が
 路錢も借せ。又京小知音の者もあれ。其者の方へ頼と進む。居たあ
 彼者の方へ往て奉公の義と商議せし。最懇切練め。湯も沸
 とて去吾小麦飯を勧め。其身も小者も小食。釣る。鮎を炙て酒を飲
 ぬ。其夜公主客三人枕を交て。歌をう。去吾枕小着も多。心神を安し
 む更不夢も結び得。お跡れぬ。休来一方行末と左や右。惟ひはる。夜
 ハ仄くと明らう。くれ。全羽も起て小者と呼覚。朝餉の粥と煮。煮さ存。小程
 わく。粥も熱る。も三人。是を食。畢り。借全羽ハ此の銀錢を。出。と去吾
 小。入。す。二通の文書と考。て。渡。此文書。懐中。と京へ上り。北白川へ。尋行

彼者小。り。て。身。の。在。着。を。求。め。ら。べ。と。残。る。と。ら。あ。言。教。れ。去。吾。と
 數度推。い。た。緘。小。御。身。あ。う。某。底。の。水。屑。あ。う。た。不。測。小。命。と。助。る。う。
 再生の大恩の。あ。む。前夜。の。御。抱。と。い。衣服。路。銀。を。借。給。り。御。看。志
 礼。謝。の。心。冬。一。雞。御。深。情。不。依。て。身。の。在。着。定。ま。り。い。づ。早。速。御。礼。と。下
 と。厚。く。恩。を。謝。し。礼。を。演。遂。小。辞。を。告。て。立。出。堅。田。村。を。後。不。足。て。京。都。志
 て。上。り。往。て。北。白。河。へ。い。ろ。兵。太。知。音。の。者。を。尋。る。小。左。右。多。相。知。る。門
 呼。を。乞。て。對。面。し。兵。太。が。文。書。と。出。身。小。義。を。頼。り。れ。此。男。の。貧。人。ハ
 又。え。か。う。律。氣。あ。男。小。て。文。書。と。續。で。快。く。肯。ひ。和。殿。書。成。り。る。や。と。向
 小。う。去。吾。多。て。手。跡。ハ。幼。少。の。時。より。好。拙。れ。も。少。く。書。目。と。い。ふ。お。其。幸。の
 更。か。う。近。村。小。楞。嚴。院。と。い。る。大。梵。刹。あり。其。寺。中。小。物。書。家。借。の。欲。れ。り。我。知
 去。吾。の。者。頼。り。れ。我。の。其。話。あり。れ。和。殿。ハ。人。品。も。卑。う。う。され。彼。寺。へ。奉。公。せ。れ。ん。ハ

如何ぞと問ふ吾謝と身みの難たがひの秋あきを何方いかなかも苦くるくも万望まんだん管くだんの
 てありといと頼たのむも也や全あの男おとこ点ち首うぶをむ少すく時とき待まちれよと外との方かたへま出でるも半はん
 時ときむも有あて一人ひとりの男おとこと伴ともひりてい吾わが未ま向むかひて奉ほう公こうの管くだん媒ませらるも此こ人ひとが
 日ひ道みちして往ゆるも言ことわらばと吾わが主ぬしの好この意いを謝あがふも彼か男おとこ不ふ従じゆひて楞らう嚴げん院いん
 到いたるも小こ堂だう塔たつ巍ゑいたる大だい寺じ中ちゆう小せう傍ぼう坊ぼう數すう軒けんあり其その中ちゆうの普ふ賢けん院いん
 と標ひょう札さつち一いつ房ぼう伴ともひ入い住ぢゆう僧そうと何なに々々終しゆうと吾わがと呼よびて住ぢゆう僧そう小せう同どう見けん々々各かく々々此こ僧そうと
 清せい真しんと号ごうせり吾わが人ひと品ひん卑ひくもとんて國くに所ところ姓せい名なを問と書かせり吾わが小せう珠しゆ
 の外が達たつ筆ふであれを清せい真しんの意い不ふ適たつひて紀き録りよく即すなはち抱かかりて言こと々々吾わが小せう珠しゆ
 思おもひて謝あがふも官くわん媒ま人の男おとこ三さん喘ぜん々々其その小せう吾わが身み収おさめる安あん堵どの思おもひを不ふ
 万ま端たん心しんを用もちひて勤こむも清せい真しんも好この家け人にんを得えるも心こころ恰さびかるも
 扶す桑そう皇こう統とう記き後ご篇へん卷くわん之し終しゆう

名古屋 大曾根 矢野平兵衛藏版畧書目

增註十八史略 <small>七冊</small>	小學讀本	四冊	尾張明細圖	一冊
四書集註	十冊	同	字引	一冊
大	學	一冊	農家小學	一冊
中	庸	一冊	日本畧史	二冊
論	語	四冊	小學師教授法	一冊
孟	子	四冊	明治用文章	一冊
古文孝經	一冊	幼童必携	一冊	四書字引
必携 <small>人民</small> 公用文例	一冊	日用塵功記	一冊	道二翁道話 <small>近</small>
必携 <small>日用</small> 證書文例	一冊	府縣郡名録	一冊	說教道話 <small>近</small>

